



※ Windows 環境にて、本 UPS (Smart-UPS500J)を使用し、PowerChute Business Edition エージェントをインストールすると、UPS の自動検出において、「PowerChute Business Edition はこの機種の UPS をサポートしていません」というメッセージが表示され、インストールが終了します。本 UPS は自動検出を行わず、手動で設定してください。

NEC Express5800 シリーズ

PowerChute[®] Business Edition v.7.0

インストールガイド

ごあいさつ

本ガイドは、PowerChute[®] Business Edition v.7.0、および関連製品やインストール 方法について説明しています。『PowerChute[®] Business Edition v.7.0』をご使用に なる前に必ずお読みください。

Windows[®] は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商 標です。

Smart-UPS[®]、PowerChute[®] は American Power Conversion Corporation の登録 商標です。

Linuxは, Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat[®]は、Red Hat, Inc. の登録商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標で す。

インストールガイド:

PowerChute[®] Business Edition v.7.0

American Power Conversion Corporation -- ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェア使用許諾契約書の翻訳は、ユーザの便宜のみを目的として提供されています。 詳細は、下記のセクション 11 を参照してください。

本ソフトウェア使用許諾契約書 (以後「契約書」)は、「ライセンサー」である American Power Conversion Corporation(以後「APC」)およびユーザ (以後「お客様」)の間で結ばれた法律 上の契約であり、本契約書が付属している APC ソフトウェアに関するものです。

注釈 : 本ソフトウェア製品のボタンラベルが「同意します」と異なる場合 (「はい」など)、「同 意します」に読み替えてください :

「I agree(同意します)」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、 コピー等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をし たことになります。

* ユーザは、お客様 (ユーザが代表となることを許可された法人)の代表としてこれらの条件を 承諾する権限を得ている。

* ユーザは、お客様として本契約書の条件に従い個人的に契約する意思がある。

ユーザが代表となることを許可された法人の代表者としてこれらの条件を承諾した場合、ユー ザはその法人の代表としてのみ本ソフトウェアを使用できます。個人的に契約した場合、本ソ フトウェアの使用はユーザ個人での使用に限られます。

注釈:本ソフトウェア製品のボタンラベルが「同意しません」と異なる場合(「いいえ」など)、 「同意しません」と読み替えてください:

ユーザが企業またはその他の法人の代表としてこれらの条件を承諾する権限を得ていない、もしくは個人的に契約する意思がない場合、APC は本ソフトウェアをライセンスいたしませんので、「同意しません」ボタンをクリックしてください。

本契約書の条件に違反して本ソフトウェアをインストールまたは使用すると、米国著作権法お よび国際条約に違反することになります。

APC ソフトウェアにサードパーティ製ソフトウェアが付属している場合、当該サードパーティ 製ソフトウェアは本ライセンス契約条件の対象外となります。当該サードパーティ製ソフト ウェアのライセンス契約が、当該ソフトウェアに関するお客様およびライセンサーの責任を規 定します。

1. ライセンスの許可

これにより、APC は本契約書の条件に従って本ソフトウェアの使用に関する非独占的、譲渡不 可能なライセンスを許可し、お客様はそのライセンスを受諾することに同意します。本ソフト ウェアは、APC またはそのサプライヤが所有し、著作権を保有しています。お客様のライセン スはソフトウェアの所有権または権限を付与するものではなく、本ソフトウェアにおける権利 を販売するものでもありません。APC は、本ソフトウェアおよびすべての修正に関する所有権 および権限をすべて保持しています。

お客様が貸与、リース、先取特権の付与、またはその他の方法で本ソフトウェアに対する権利 を譲渡することは禁止されています。また、お客様がソフトウェア内の商標、ロゴ、著作権等 の所有権表示、銘板、シンボル、またはラベルを除去し、改変することも禁止されています。

2. 使用権

本ソフトウェアは、本契約書の本「使用権」セクション、または関連した送り状に記載された 人数のユーザによる使用、または記載された台数のサーバまたはワークステーション上での使 用 (あるいはその両方)に関してのみライセンスされます。

お客様は、本ソフトウェアを次のいずれかの方法で使用できます。

* APC UPS を電源とする単一のファイルサーバ上で、その単一のファイルサーバに接続された コンピュータおよび関連周辺装置にサービスを提供する目的での使用

* 同一 APC UPS を電源とする 1 台または複数台のコンピュータ上での使用

* Web サーバをサポートする目的での使用 (Web サーバは、1 つまたは複数のネットワーク上 に存在する不定台数のワークステーションまたはコンピュータに制限なく接続できます)

3. 複製権

お客様は、次の目的に限り、本ソフトウェアのコピーを作成できます。

* お客様は、保存またはバックアップの目的で本ソフトウェアのコピーを1部作成できます。 * お客様は、本契約書、または本ソフトウェアに付属のドキュメンテーション(あるいはその 両方)の記述に従って、認可および意図された方法で本ソフトウェアを使用するために必要な 場合に限り、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションの追加コピーを作成できます。お客 様は、次の目的に限り、本ソフトウェアのコピーを作成できます。

すべてのコピー (保存用コピーを含む)には、APC 著作権表示、およびライセンスされたソフトウェアに付属しているその他の所有権表示が含まれている必要があり、また本契約書の条件に完全に従っている必要があります。

お客様は、本ソフトウェアを再配布してはならず、また再配布の目的でコピーを作成してはな りません。

4. 制限事項

お客様は、次のことを行ってはなりません。

* 逆アセンブル、逆コンパイル、またはその他の方法で本ソフトウェアからソースコードの生 成を試みること。

* 本ソフトウェア、または本ソフトウェアの任意の部分をもとに、模倣物を作成すること。

* 事前の書面による APC の承諾なしに、本ソフトウェアまたはそのドキュメンテーションを ローカライズまたは翻訳すること。

* 事前の書面による APC の承諾なしに、本ソフトウェアに対して実行したベンチマークテストの結果を第三者に公開または提供すること。

5. 本契約の期間および終了

本ライセンスは、お客様が本契約に従って本ソフトウェアを使用する限り継続するものとしま す。お客様が義務のいずれかに違反した場合、本ライセンスは終了するものとし、APC による 通告および要求に応じて、お客様は本ソフトウェアのコピーすべてと、本ソフトウェア用に提 供された、または本ソフトウェアに付属していた資料すべてを破棄または返却することに同意 するものとします。お客様は、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションのコピーすべてを APC に返却することによって、本契約を終了できます。

6. 限定保証

APC 限定保証は、お客様が本ソフトウェアを受け取った時点から 90 日間適用されます。 APC は、限定保証期間中に、本ソフトウェアが付属のソフトウェアユーザドキュメンテーションに記載されているとおりに機能すること、および通常の適切かつ意図された使用条件では、 本ソフトウェアが収録されている媒体の材料および品質に欠陥がないことを保証します。

本保証は、次の場合には適用されません。

* 本ソフトウェアが、ドキュメンテーションに指定されたもの以外のマシン、または指定され たバージョン以外のオペレーティングシステム上で使用された場合。

* 本ソフトウェアが、誤用、過失、事故、またはドキュメンテーションに指定された条件を超 える環境条件にさらされたことにより、損傷を受けた場合。

* APC が提供する修正プログラムの一部を適用していないバージョンのソフトウェアを使用した場合。

* ソフトウェアが改造された場合。

APCは、ソフトウェアが中断またはエラーなしに使用できること、およびプログラムエラーが 修正されることを保証しません。

本保証において APC が負う義務、およびお客様が受けられる補償は、APC の判断に基づく、ソフトウェア全体または一部の修理または交換、または支払われたライセンス料金の払い戻しのみです。本限定保証は、APC が 90 日の保証期間中に書面による通告を受け取った場合にのみ 有効です。

7. 保証および義務の制限

本契約書のセクション6「限定保証」に明示的に規定されたものを除き、以下の制限がありま す。(i)APC は本ソフトウェアに関し、お客様または第三者に対して、過失に関する義務を含む いかなる義務も負いません。(ii) 明示的なもの、暗黙的なもの、法律上のもの、本契約書のその 他の規定にあるもの、もしくはその他の連絡手段にあるものを問わず、APC は一切の保証を行 わず、お客様は一切の保証を受けません。(iii)APC は、商品性、特定目的に対する適合性、権限、特許権無侵害を含む、いかなる保証も行いません。

APCは、いかなる場合においても、派生的損害、間接的損害、特別損害、複合損害、または付随的損害に関して一切責任を負わないものとします。たとえ APC がかかる損害の可能性に関して知らされていた場合でも同様です。

国または地域によっては、暗黙的保証の除外、または付随的あるいは派生的な損害の制限が許可されていないため、前述の制限または除外が適用されない場合があります。ただし、該当する法律によって許可されたすべての範囲で、法律上必須の保証(存在する場合)の有効期間は、 90日の保証期間に制限されます。

APC のディーラ、代理店、従業員、お客様は、本限定保証を変更、拡張、追加することを許可 されていません。本ソフトウェアに関連した請求に対する、お客様へのAPC の累積負担は、お 客様が本ソフトウェアに対して APC に支払ったライセンス料金すべての合計額を超えないも のとし、またライセンス料金が不要であった場合は、ソフトウェアの交換を超えないものとし ます。

8. 危険な状況、リスクの高い状況、または人命に関わる状況における無保証

本ソフトウェアはフォールトトレラントではなく、安全の保証された動作を必要とする危険な 環境(ソフトウェアの障害が、死亡、けが、または重大な物理的損害、環境汚染に直接つなが る原子力施設、航空機のナビゲーションシステムまたは通信システム、航空交通管制、直接生 命維持装置、兵器システム等の提作)での制御機器として使用または再販売するために設計ま たは製造されておらず、そのような目的のものではありません。したがって、APC およびその サブライヤは、このような危険な活動、リスクの高い活動、または人命に関わる活動に対する 明示または暗黙の適合性の保証を一切行いません。

9. カスタマサポートに関連した技術情報の使用

お客様は、技術 / カスタマサポートサービスを受けている間にお客様が提供した技術情報を、 APC が使用することに同意するものとします。APC は、かかる情報を自社の業務上の目的(製品のサポートや開発等)に利用できますが、お客様の身元が分かるような形態でかかる情報を 使用しないことに同意します。

10. 譲渡に関する制限

本契約書、本契約書のもとで許可されるライセンス、本ソフトウェア、および本ソフトウェア に対するすべての修正は、事前の書面による APC の承諾がなければ、譲り受けることも、いか なる方法で譲渡することもできません。

11. 契約書の言語および地域

本契約書の原典は英語で書かれています。本書の関係者は、別の法律または裁判所を規定する 可能性のある規則、法律、または規制の適用、または英語以外で書かれた本契約書を所持する ことを要求しないものとします。本契約書を英語以外の言語に翻訳したものは、お客様の便宜 のみを目的として提供されるものであり、本契約書の法的拘束力を持つ版ではありません。 本契約書の条件は、米国マサチューセッツ州の法律に準拠して解釈され、当州の法の抵触に関 する原則、または法律の選択には効力を及ぼしません。APC とお客様は、物品の国際売買契約 [に関する国連協定 (United Nations Convention on Contracts for the International Sale of Goods) を本契約書に適用しないものとします。

12. 米国政府の制限された権利の説明

本ソフトウェアおよびドキュメンテーションは、「商業用品目」(48 C.F.R. 2.101(1995 年 10 月) で定義されている用語に従う) であり、「商業用コンピュータソフトウェア」および「商業用 コンピュータソフトウェアドキュメンテーション」(48 C.F.R. 227.7202-1、227.7202-3、お よび 227.7202-4(1995 年 6 月) で使用されている用語に従う) で構成されます。お客様が米国 政府、またはその機関または省である場合、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションは商 業用品目としてのみライセンスされ、本契約書の条件に準ずる他のすべてのエンドユーザに対 して許可される権利だけが与えられます。ライセンサーは、American Power Conversion Corporation, P.O. Box 278, 132 Fairgrounds Rd., West Kingston, RI 02892, U.S.A. です。

13. 輸出規制

本ソフトウェア、またはその基礎となる情報または技術は、次のいずれに対しても、ダウンロー ド等の方法により再輸出することはできません。

*米国が通商禁止品目を指定している対象国(あるいは国民または在住者)

* 米国財務省の特別指定国民 (Specially Designated Nationals) リストに記載されている者

* 米国商務省の発注拒絶表 (Table of Denial Orders) に記載されている者

本ソフトウェアのダウンロードまたは使用により、お客様は前述のことに同意したものとし、 お客様がかかる国に所在しないこと、かかる国の管理下にないこと、かかる国の国民または在 住者でないこと、かかるリストに記載されていないことを保証するものとします。

お客様は、本ソフトウェアの輸出入または使用に影響する可能性のある、地域の法律を遵守す る義務があり、本ライセンスを実施可能にするために当該法律が要求する規制や登録手順を遵 守していることを意思表示したものとします。

ライセンスおよび商標

APC のロゴ、APC、Back-UPS、Back-UPS Pro、FlexEvent、Matrix-UPS、Measure-UPS、 Power Array、PowerChute、PowerStack、PowerXtend、Share-UPS、SmartBoost、 SmartCell、SmartTrim、Smart-UPS、および Symmetra は、American Power Conversion Corporationの商標または登録商標です。

他の商標、製品、および企業名は、それぞれの企業が保有し、ここでは参照用としてのみ用い られています。

AMERICAN POWER CONVERSION CORPORATION

本社

日本

132 Fairgrounds Road P.O. Box 278 West Kingston, RI 02892 United States of America 〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-30-4 BR 五反田 7 階

Telephone: 401-789-5735 Toll Free (US and Canada): 800 800 4272 電話: 03-5434-2021 Fax: 03-5434-2022.

目次

第1章	PowerChute Business Edition 製品の内容	1
第2章	ハードウェア要件	1
第3章	ソフトウェア要件	3
第4章	PowerChute Business Edition 概要 4.1 はじめに	4 4
	4.2PowerChute Business Edition のコンポーネント 4.3 システム構成例とインストールコンポーネント (1)UPS に接続するサーバ本体のみで管理する構成	5 5 5
	(2) ターミナルサービス経由で管理する構成(3)UPS に接続するサーバをリモートのマネージャから管理する構成 .	6 7
第5章	PowerChute Business Edition v.7.0 インストール (Windows 版)	.10
	5.1PowerChute Business Edition エージェントのインストール 5.2PowerChute Business Edition サーバのインストール 5.3PowerChute Business Edition コンソールのインストール	.12 .14 .20
第6章	 PowerChute Business Edition v.7.0 インストール (Linux 版). 6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合 6.2 config.sh による PowerChute Business Edition エージェントの設定 PowerChute Business Edition エージェントを インストール後の設定 config.sh を使用しての 	. 22 . 22 . 22
第7章	PowerChute Business Edition エージェントの設定変更 PowerChute Business Edition v.7.0 アンインストール 7.10S が Windows の場合 (エージェント、サーバ、コンソール共通) 7.2 対象サーバで直接アンインストール作業を行う場合 (Linux の場合)	. 24 . 26 .26 .28
第8章	コンソールの操作 8.1 サーバへの接続 8.2 エージェントの登録 8.3 エージェントの削除 8.4 サーバが自動検出されない場合の対処方法	.29 .29 29 33 .34
	 8.5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ	.36 . 36 . 36 . 37 . 37
	(5) 通信障害関連メッセージ	.39

第9章	WebUI での操作	41
	9.1Java Runtime Environment の確認	41
	9.2 エージェントへの接続	42
	9.3 エージェントの設定	43
	9.4 イベントアクションの設定	46
第10章	シャットダウンプロセスについて	50
	10.1 シャットダウンシーケンスの設定	50
	10.2 シャットダウンタイプの設定 (Windows サーバのみ)	54
	「シャットダウン」を選択した場合	55
	「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合	55
	「休止する」を選択した場合	56
	10.3 スケジュールによるシャットダウンプロセス	57
	10.4 電源障害時のシャットダウンプロセス (電源保護方針が「安全性を重視」の場合)	
	10.5 電源障害時のシャットダウンプロセス (電源保護方針が「ランタイム重視」の場合)	60
第11章	スケジュールシャットダウンの設定	64
第12章	UPS との通信設定について	67
	12.1 通信ポートの変更	68
第13章	コンソールと WebUI における機能差分	70
第14章	障害発生時の資料採取方法	72
	14.1 Windows 環境	72
	PowerChute Business Edition のログ	72
	OS のイベントログの採取	73
	システム情報ファイル	73
	Collect ログと IPMI ログ	74
	確認事項	74
	14.2 Linux 環境	80
	コマンドラインから行う場合	80
	シ人山クの採取	
	(唯ぷ事県	
	14.5 焊舌調苴 化积宗	82
第15章	注意事項	84

1 PowerChute Business Edition 製品の内容

PowerChute Business Edition の製品内容は次の通りです。 添付品が全てそろっているかどうか、 確認してください。

- PowerChute Business Edition v.7.0 (CD-ROM 媒体)
- インストールガイド(本書)
- リリースノート
- インタフェースケーブル (940-0024C)

注意:インストール CD-ROM 媒体内には「Solaris」用のインストールモジュール も含まれていますが、Solaris の機能はサポートしていません。

ユーザーズガイドについて

ユーザーズガイドは、HTML形式のオンラインヘルプ(コンパイル済み HTML ファ イル)が用意されています。HTML形式のオンラインヘルプを参照するには、以下の いずれかの方法にて参照してください。

- PowerChute Business Editionの各GUI上の[ヘルプ]ボタンをクリックする。
- PowerChute Business Edition コンソール画面の[ヘルプ]→[目次]および [現トピックのヘルプ]を選択する。
- [スタート]→[プログラム]→[APC PowerChute Business Edition]→[コン ソールのヘルプ]を選択する。

2 ハードウェア要件

本製品を使用するには以下の環境が必要です。

メモリ

● エージェント: Windows 版 128MB 以上

Linux版 128MB以上

- サーバ : 256MB 以上
- コンソール:128MB以上

空きディスク容量

● エージェント: Windows版 62MB以上(うちJRE約47MB)

Linux版 68MB以上(うちJRE約52MB)

- サーバ : 97.5 MB以上 (うち JRE 約 47MB)
- コンソール:40 MB 以上

本体装置および接続ケーブル

- 本製品に対応する本体装置
 - Express5800 シリーズ
- UPS と本体装置を接続するシリアルケーブルは、本製品に同梱されているインタフェースケーブル (940-0024C)を使用してください。

BIOS の設定

● シリアルポート (COM ポート) の設定

BIOS の設定で保守コンソール用に割り当てられている COM ポートを、UPS 用に使用した場合に UPS が誤作動することがあるため、保守コンソール用に割り当てられている COM ポートを UPS 用として使用しないでください。

また、UPS に使用している COM ポートを BIOS の設定で保守コンソール用として割り当てると、UPS が誤作動することがあるため、UPS に使用している COM ポートを保守コンソール用に使用しないでください。

注意:ご使用のサーバ装置によっては、使用可能なシリアルポートが COM2 のみと限定されている場合があります。サーバ装置に添付のユーザーズガイ ドを参照し、使用可能なシリアルポートをご確認ください。

● AC-LINK の設定

サーバ装置における BIOS の設定により、UPS からの電力供給が開始されても、サーバが起動しない場合があります。BIOS の設定を確認してください。

== UPS を使って自動運転を行う場合の注意 ==

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK(AC 連動モード)を「Power ON」にしていただく必要があります。BIOS の設定方法については、サーバにより異なります。サーバ本体添付のマニュ アルを参照してください。

注意 :AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

本製品を使用するには、次のいずれかの OS が必要です。

- Windows 2000 Professional/Server/Advanced Server (Service Pack 4以降)
- Windows XP Professional (Service Pack 1a 以降)
- Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server (32bit 版のみ)
- Red Hat Linux 7.3 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)
- Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)
- Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)
- MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 (PowerChute Business Edition エージェントのみ)

PowerChute Business Edition では、TCP/IP によるネットワーク接続されていることが必要です。

旧バージョンの PowerChute Business Edition が既にインストールされている場合 は、旧バージョンの PowerChute Business Edition をアンインストールした後、本 バージョンの PowerChute Business Edition をインストールしてください。

WebUI 機能を使用する際には、Web ブラウザは以下をご使用ください。

- Windows マシンからエージェントにアクセスする場合、Internet Explorer 6 以降をご使用ください。
- Linux マシンからエージェントにアクセスする場合、Netscape 7.0 をご使用 ください。

※ Windows マシンから Internet Explorer Version 6、または Linux マシンから Netscape 7.0 を使用して WebUI 機能を利用する場合、 Sun の Java Runtime Environment (JRE) が必要となります。

- Windows マシンから Internet Explorer を使用する場合は JRE v1.4.1 または v1.4.2 をご使用ください。
- Linux マシンから Netscape を使用する場合は JRE v1.4.1 をご使用くだ さい。

詳しくは 41 ページの「9 WebUI での操作」を参照してください。

注意:「**32** ビット **Microsoft** 仮想マシン (Microsoft VM)」では WebUI 機能を 利用できません。

注意:Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 マシンに Netscape をインストー ルする際、OS のインストール CD-ROM 媒体に含まれている「compat-libstdc++-7.3-2.96.122.i386.rpm」を先にインストールして下さい。

※ Windows 環境にて、本 UPS(Smart-UPS500J) を使用し、PowerChute Business Edition エージェントをインストールすると、UPS の自動検出において、

「PowerChute Business Edition はこの機種の UPS をサポートしていません」という メッセージが表示され、インストールが終了します。本 UPS は自動検出を行わず、 手動で設定してください。

4 PowerChute Business Edition 概要

4.1 はじめに

PowerChute Business Edition ソフトウェアは、図のように PowerChute Business Edition エージェント、PowerChute Business Edition サーバ、および PowerChute Business Edition コンソールの3種類の独立したコンポーネントから成り立っています。各サーバ にインストールされるコンポーネントの組み合わせは、特に制限がありません。例えば、 1 つのサーバに全てのコンポーネントをインストールすることも可能です。



これらのコンポーネントの詳細については5 ページの「4.2 PowerChute Business Edition のコンポーネント」を参照してください。各コンポーネントのイ ンストールの概要は、Windows OS にインストールする場合は10 ページの「5 PowerChute Business Edition v.7.0 インストール (Windows 版)」を、Linux OS にインストールする場合は22 ページの「6 PowerChute Business Edition v.7.0 インストール (Linux 版)」を参照してください。

注意: PowerChute Business Edition v.6.1の PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition v.7.0のサーバおよびコンソール にて管理することはできません。同様に、PowerChute Business Edition v.7.0 の PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition v.6.1のサーバおよびコンソールにて管理することもできません。

また、PowerChute Business Edition v.6.1 コンソールから PowerChute Business Edition v.7.0 サーバへの接続、および PowerChute Business Edition v.7.0 コンソールから PowerChute Business Edition v.6.1 サーバへの接続につ いても同様に未サポートです。

4.2 PowerChute Business Edition のコンポーネント

PowerChute Business Edition エージェント

UPS ステータス監視機能、および長時間の停電時に UPS が保護するコンピュータの システムシャットダウン機能を提供しています。このソフトウェアは、UPS に直接接 続されている各サーバ上にインストールする必要があります。

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために、 PowerChute Business Edition サーバおよび PowerChute Business Edition コンソー ルが必要となります。

PowerChute Business Edition サーバ

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために用いられます。PowerChute Business Edition サーバは PowerChute Business Edition エージェントから情報を収集して、イベントの追跡や通知、PowerChute Business Edition コンソールと通信を行います。

1 台の PowerChute Business Edition サーバで管理できる PowerChute Business Edition エージェントの最大数は 25 台です。25 台を超える PowerChute Business Edition エージェントを管理する場合には、PowerChute Business Edition サーバは 2 台以上必要となります。

PowerChute Business Edition コンソール

PowerChute Business Edition サーバに接続して、UPS で保護されているシステムの 管理と設定を行います。

注意: PowerChute Business Edition で自動運転を行う場合、スケジュール シャットダウンの設定は PowerChute Business Edition コンソールでのみ行う ことができます。

4.3 システム構成例とインストールコンポーネント

UPS を接続した管理対象となるサーバマシンの管理をどこから行うかによって、インストール方法は以下の選択肢があります。各マシンの OS がサポート対象の Windows であれば (1),(2) のいずれの構成も可能です。ただし、ターミナルサービス クライアントを使用してサーバを管理する場合は (2) の構成となります。UPS を接続したサーバマシンが Linux サーバの場合には、(3) の構成となります。

(1)UPS に接続するサーバ本体のみで管理する構成

サーバ OS が Windows であれば、サーバ本体に全コンポーネントをインストールして UPS の制御 / 管理を行うことが可能です。

※単体構成の場合でもTCP/IPによるネットワーク接続が行えることが必要になります。

サーバ	インストールするコンポーネント	備考
サーバ マシン	PowerChute Business Edition コンソー ル PowerChute Business Edition サーバ PowerChute Business Edition エージェ ント	Windows サーバを使用 エージェントのインストール 時に「Smart-UPS」を選択

LAN



(2) ターミナルサービス経由で管理する構成

iStorage NS シリーズなど、ターミナルサービスクライアントを経由してサーバ管理 を行うようなシステムの場合、使用するターミナルサービス接続用のクライアントア プリケーションが Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」であるか 「リモートデスクトップ接続」であるかにより、ターミナルサーバマシンヘインストー ルする PowerChute Business Edition コンポーネントが異なります。

<Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用する場合 >

Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用してターミナルサー バに接続し、PowerChute Business Edition コンソール、デバイスリストウィザー ド、および設定プロファイルウィザードを起動した場合、画面が正しく表示されませ ん。これは「ターミナルサービスクライアント」の表示可能色数が少ないために発生 します。

7 ページの「(3)UPS に接続するサーバをリモートのマネージャから管理する構成」の 構成にてご使用ください。

<「リモートデスクトップ接続」を使用する場合 >

「リモートデスクトップ接続」は PowerChute Business Edition を使用するための要件である『16 ビットカラー』の表示が行えますので、ターミナルサーバマシンにす

べてのコンポーネントをインストールし、ターミナルサービスクライアントから「リ モートデスクトップ接続」を使用して接続することで管理できます。

サーバ / マネージャ	インストールする コンポーネント	備考
サーバマシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ PowerChute Business Edition エージェント	Windows サーバを使用 エージェントのインス トール時に「Smart-UPS」 を選択
ターミナルサービス クライアント	なし	



(3)UPSに接続するサーバをリモートのマネージャから管理する構成

管理対象となる UPS を接続したサーバマシンの台数が 25 台以下であるシステムにおいて、マネージャマシンで各サーバを管理する場合、以下の図のようなシステム構成としてください。それぞれのマシンに各コンポーネントをインストールしてください。

iStorage NS シリーズなどにおいて、Windows 2000 の「ターミナルサービスクラ イアント」を使用してサーバ管理を行うようなシステムの場合も、ターミナルサーバ マシンをマスタサーバマシン(あるいはスレーブサーバマシン)として、ターミナル サービスクライアントマシンをマネージャマシンとして、各コンポーネントをインス トールしてください。

サーバ / マネージャ	インストールする コンポーネント	備考
マスタサーバ マシン	PowerChute Business Edition エージェント	 Windows サーバを使用 エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択 Linux サーバを使用する場合エージェ ントのインストール時に「pbeagent- 7.0.0-419.i386.rpm」を使用
スレーブサーバ マシン	なし	 Windows サーバを使用 エージェントのインストール時に 「Interface Expander のベーシック ポート」または「Share-UPS のベー シックポート」を選択 Linux サーバを使用する場合エージェ ントのインストール時に「pbeagent- 7.0.0-419.i386.rpm」を使用
マネージャ マシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ※	

※本 UPS(SmartUPS500VA)はマスターサーバにしか接続できません。スレーブサーバには本 UPS 以外の SmartUPS を購入して接続してください。

※ 2 台以上のマネージャマシンで運用する場合、1 台のマネージャマシンのみに PowerChute Business Edition サーバをインストールしてください。 ※本 UPS(SmartUPS500VA)はマスターサーバにしか接続できません。スレーブサーバには本 UPS 以外の SmartUPS を購入して接続してください。



5 PowerChute Business Edition v.7.0 イ ンストール (Windows 版)

※ すべてのインストール作業は administrators 権限を持つユーザで実施してください。

※ PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていない環境で はサーバと UPS をシリアルケーブルで接続しないでください。PowerChute Business Edition エージェントのインストールの際に [APC UPS の通信ポートを自動検出しま すか?]とメッセージボックスが表示されてから (PowerChute Business Edition エー ジェントのインストール手順④) コンピュータと UPS をシリアルケーブルで接続し てください。

※ UPS をシリアル接続で使用する場合、iStorage NS シリーズでは必ず COM1 を UPS 通信ポートとして選択してください。COM2 を通信ポートとして使用すること はできません。

1. CD-ROM ドライブに PowerChute Business Edition v.7.0 の CD-ROM 媒体を 挿入すると次の画面が表示されます。

自動で表示されない場合は、"E:\Windows\Setup.exe"を実行してください。 (例は CD-ROM ドライブが E:の場合です。ご使用の環境に合わせて変更して ください。)



2. ここで「製品のインストール」をクリックすると次の画面が表示されます。

APC PowerChute Business Editionのセットフィフ*
製品のインストール
PowerChute Business Edition エージェントは、UPSに保護された各コナ・コーク上にインストール して下さい。PowerChute Business Edition サーバは、各PowerChute Business Edition エージェントを集中管理するために1合のコンドュートにインストールして下さい。 PowerChute Business Editionコンソールは、各PowerChute Business Edition エージェント の参照や設定を行うディスクトッフ、ワークステーション、またはラッフトッフコンピュータ上にインストールして 下さい。
Windowsエージェント
Windowsサーハ、 ホインストール Install
Windowsコンソール ホインストール Install
Linuxエージェント Linuxフォルダ内にあります
Solarisエージェント Solarisフォルダ内にあります
マウスボインタをそれぞれの項目上に移動すると、各コンポーネントの説明が表示されます。
and the second
●前へ ● スタートアップがイト Power Change
●終了 ● リリースノート BUSINESS EDITION

3. インストールする各コンポーネントの「Install」ボタンを押します。

エージェントのインストール手順は 12 ページの「5.1 PowerChute Business Edition エージェントのインストール」、サーバのインストール手順は 14 ページの「5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール」、コンソールのインストール手順は「20 ページの「5.3 PowerChute Business Edition コンソールのインストール」をそれぞれ参照してください。

※必要な PowerChute Business Edition コンポーネントをサーバにインストールし 終えましたら、必ずサーバの再起動を行ってください。

※「Solaris」の表示がありますが、「Solaris」の機能はご使用になれませんので、ご 注意ください。

PowerChute plus がインストールされている環境に、PowerChute Business Edition の各コンポーネントをインストールしようとすると次の画面が表示されます。(詳細は 84 ページの「15 注意事項」を参照してください)

間い合わ	tt 🛛 🕺
?	セットアップログラムは、PowerChute plusを検出しました。このソフトウェガは、PowerChute Business Editionの セットアップログラムな実行する前に目録してたいな単分の見ます。 PowerChute Busを対象化ますが? (化しいえを選択すると、セットアップログラムが終了します。)
	IIII UNZW

「はい」を選択すると PowerChute plus のアンインストールが開始されます。アンインストールが完了すると PowerChute Business Edition のインストールが開始されます。(「いいえ」を選択すると PowerChute Business Edition のインストールを行うことができません。)

5.1 PowerChute Business Edition エージェントのイン ストール

 エージェントのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を 押します。



2. 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

PowerChute Business Editionのセットアップ*	×
使用許諾契約	
次の製品使用許諾契約を注意深くお読みください。	
使用許諾契約の残りの部分を表示するには、PAGE DOWNキーを押して下さい。	
American Power Conversion Corporation ー ソフトウェア使用許諾契約書	
本ソフトウェア使用時語契約書の翻訳は、ユーザの便宜のみを目的として提供されています。詳細 は、下記のセクション11を参照してください。	
本ソフトウェア使用は経験的書(以後)契約書()は、「ライセンサーコであるAmerican Power Conversion Comportant(以後)APO()およびユーザ(以後)お客種())の間で結ばれた法律上の契約 であり、本契約書が1月回しているAPO(フナウユ・アに関するものです。	
注釈 ホソフトウェア製品のボタンラベルが「同意します」と異なる場合「「はい」など)、「同意します」に 💌	
使用は結契約の多項にすべて同意しますか?しょうえを選択した場合、セットフックロウラムは終了しま す。PowerChute Business Editionをバストールするには、使用は話契約に同意する必要があります。	
[jtt) しいえ]

3. インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してフォルダを指定してください。「次へ」を押します。(既にサーバまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

owerChute Business Editionのセットアッフ*	ļ
行えたール先の選択	
セットアップガバファイルをインストールするフォルダを選択してください。	
PowerChute Business Editionを次のフォルダにインストールします。	
このフォルタラこインストールする場合は、[次へ]をクリックして下さい。別のフォルタラこインストールする場合は、[参照]をクリックして目的のフォルタを遵択して下さい。	1
C#Program Files#APC#PowerChute Business Edition	٦.
	-
く前へ 次へ〉 キャン・	ell

※ インストールフォルダ名にマルチバイト文字(ひらがな、漢字等)を使用 すると、WebUIからの設定が正常に行えません。インストールフォルダ名は シングルバイト文字(半角英数字)を使用してください。

4. 以下のメッセージボックスが表示されます。この時点でサーバと UPS をシリ アルケーブルで接続してください。自動検出を行わずに「いいえ」を選択し てください。

問い合わ	ŧ.		×
?	APC UPSの通信	言ポートを自動検	出しますか?
	(III)	(ハ(いえ(<u>N</u>)	

「はい」を押すと検出に失敗しインストールが終了します。必ず「いいえ」を 選択してください。

4. で「いいえ」を選択すると UPS タイプと通信ポートの選択画面が表示されます。接続されている UPS タイプと通信ポートを選択してください。

UPS タイプは「Smart-UPS」を選択してください。

PowerChute Business Edition	n@セットアッフ*
APC www.apc.com	以下のリスカッシリPSと00Mが一大を選択して下さい。セットアックログラムに UPSを検出させる場合は、「自動現出の実行」を外小して下さい。さら に詳細な情報とついてしば、し動信のへルフリホウンを外小して下さい。
\bigcirc	UP\$9(7*5)회급차~-ト UP\$9(7*
	自動検出の実行 通信のヘルフ* <前へ 次へ> キャンセル

5. エージェントへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。 3~16文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+}],. /_の15文字が使用可能)で、ユーザ名およびパスワードを入力してください。入力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。

PowerChute Business Editio	nのセットアッフ*	×
APC www.apc.com	PowerChute Business Editionで使用するユーザ名とパスワードを て下さい。注意ニーで入力するユーザ名とパスワードは、ユリエル、 および確認到着ロージンド共通の支援合、管理は口袋短少ウーバンと要してが	入力し ナーバ、 スワード リます。
\mathbf{O}	ユーザ2名 apc パスワード F*** パスワードの確認 F***	
	(前へ)次へ) キャンセ	u

※ここで入力するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管 理対象エージェントで共通でなければなりません。

異なるユーザ名、パスワードを設定したエージェントがある場合、そのエー ジェントを管理するためには、各エージェントと同一のユーザ名、パスワー ドを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」 コンポーネントがイン ストールされたサーバがそれぞれ必要になります。 また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。特に、パスワードは「*」で表示されており、 確認することができないので十分に注意して入力を行ってください。

6. エージェントのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」 を押します。



7. 「製品のインストール」の画面に戻ります。エージェントが「インストール済み」となっていることを確認してください。

5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール

サーバのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。



2. 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

PowerChute Business Edition サーハ'のセットアッフ*	×
使用許諾契約	
次の製品使用許諾契約を注意深くお読みください。	
使用許諾契約の押Jの部分を表示するには、PAGE DOWN+~を押して下さい。	_
American Power Conversion Corporation ソフトウェア使用許諾契約書	
本ソフトウェア使用に非認知者の知识は、ユーザの便宜のみを目的として提供されています。詳細 は、下記のセクション11を参照してください。	
本ソフトウェア使用許諾契約書(以後f契約書))は、「ライセンサー」であるAmerican Power Conversion Corporation(以復)AFC)はたびマニーザ(以復)お客構)の間で結ばれた法律上の契約 であり、本契約書が内着しているAPC)プトウェアに関するものです。	
注釈 ホソフトウェア製品のボタンラベルが「同意します」と異なる場合『しはい」など)、「同意します」に	
使用料結契約の条項にすべて同意しますか?しょいうを選択した場合、セットックフログラムは終了します。PowerChute Business Editionをインストルするには、使用料結契約ご同意する必要があります。	
13L) U.L.IZ	J

インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先のフォルダを指定してください。指定が完了後に「次へ」を押します。(既にエージェントまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

PowerChute Business Edition サーバのセットアップ	×
インストール先の選択	
セットアップガファイルをインストールするフォルタを選択してください。	
PowerChute Business Editionを次のフォルタリこインストールレます。	
このフォルタラこインストールする場合は、[次へ]をクリックして下さい。別のフォルタラこインストールする場合は、[参 照]をクリックして目的のフォルタを選択して下さい。	
- ^).zk-Ju#7#Ju%	
C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition 参照	
く前へ () 次へ) キャンセル	
	_

※ インストールフォルダ名にマルチバイト文字(ひらがな、漢字等)を使用 すると、WebUIからの設定が正常に行えません。インストールフォルダ名は シングルバイト文字(半角英数字)を使用してください。

4. サーバへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。3~16 文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+}],./_の 15文字が使用可能)で、ユーザ名およびパスワードを入力してください。入 力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。

PowerChute Business Editio	ก๗ฃฺ๖トアッフ*	×
APC www.apc.com	PowerChube Business Editionで使用するユーザ名とハウトトを入力し てたさし、注意ニニマスカオタムーザ名とパワトトは、コント・サーバ わくの感到が良いニントは通信のはかればなりません。私はハックトト を持つエーシュルがある場合、管理しては飲めやーパが必要しなります。	>
	2-ザ名 apc ハ*スワート* *** ハ*スワート*の確認 ***	
	<前へ 次へ> キャ ルル	

※ ここで入力するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管理対象エージェントで共通でなければなりません。異なるユーザ名、パスワードを設定したエージェントがある場合、そのエージェントを管理するためには、各エージェントと同一のユーザ名、パスワードを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」コンポーネントのサーバがそれぞれ必要となります。

また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。特に、パスワードは「*」で表示されており、 確認することができないので十分に注意して入力を行ってください。 5. サーバのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押す と設定プロファイルの作成が始まります。



6. 設定プロファイルの作成を行います。次の画面が表示されたら「次へ」を押します。(この設定は後で行うことも可能ですが、ここで設定することをお薦めします。後から設定する場合は、PowerChute Business Edition コンソールにて PowerChute Business Edition サーバに接続し、デバイスリストを設定する際に再び設定プロファイルの作成画面が表示されます。)

• 数定711774340	fest COX
ΔΡΟ	設定プロファイルの作成
www.apc.com	"設定つむかくんの作時"ウィゲートな使用して、ユーザう読む方法や変更保護方 約などの設定をラフォルとして定義します。作成した設定プロフィルは、 PowerConte Business Edition サーハのデルイスリストに意知をれたすべての デルイスに適用されます。
	インストール完了が各りowerChute Business Edition コンケールよりこのフロファイル をいつでも変更可能です。また、コンケールを使って、各システムのビデルドイスの プロハディゴダイアロケから、そのシステムの設定を化配りにカスタマイスすることもできま す。
6 6	続行するには、["次へン"]を炒っりして下さい。
<u>^#7*(H)</u>	

7. 電源障害や電源に関する問題を通知する手段を選択します。通知手段は「ポケベル」、「E-Mail 通知」、「ブロードキャストメッセージ」の3通りあります。 利用したい通知手段にチェックを入れて「次へ」を押します。ポケベルを選択した場合は8.へ、E-Mail 通知を選択した場合は9.へ、ブロードキャストメッセージを選択した場合は10.へそれぞれ進みます。(複数選択することも可能です。)

通知が必要ない場合は通知手段にチェックを入れずに「次へ」を押して 11. へ進みます。

● 数定711774.64	
ΔΡΟ	通知手段の設定
www.apc.com	PowerChute Business Editionには、電源障害や電源に関する問題をユーザ に通知するための様々な手段が用意されています。
	通知手段
0 6	 赤かへ泳 ✓ E-Mait通知 ✓ プロード[*]キャストメッセージ[×]
4 6	
<u>^⊮フ°(H)</u>	

 ポケベルを選択すると次の画面が表示されます。ここでは E-Mail をサポート しているポケベルにのみメッセージを送信することができます。「次へ」を押 して 9. の E-Mail パラメータの設定に進みます。



9. E-Mail 通知を選択すると次の画面が表示されます。(ポケベルを選択した場合にも表示されます。)画面の例を参考にして、SMTP サーバ名、SMTP ユーザ名(送信されるメールの "From"欄に記載される E-Mail アドレスです。SMTPサーバにそのユーザが実在している必要はありません。)、送信先 E-Mail アドレスの登録を行ってください。送信先 E-Mail アドレスは「追加」ボタンを押すことにより登録します(最大5つ登録可能です)。

※ PowerChute Business Edition では SMTP 認証等のユーザ認証を行うメール送信はサポートしていません。

• 設定7	ԱՆԻՎՐԱ	
	PC bc.com	E-Mailハ ^ヘ ラメータの設定 PowerChute Business EditionからE-Mail通知を送信するためには、次の3 種類の項目を正しく設定する必要があります。
		SMTPメールサーハ名: (例:mailserver.domain.com) Smtp.domain.com SMTPユーザ ¹⁰ : (例:userp.pus)(dom.pin.com)
		imm Fut - y - A My username@domain.com pobe-server@domain.com 送信先E-Mail/F心之(例username@domain.com)
- 12	1	pcbe@domain.com
13	-	追加 削除 変更
13	-	テスト テスト結果
^#J*(Ю	(前へ(B) 次へ(N)> (キャンセル(C))

設定した内容が正しいかどうかを確認するためには、「テスト」ボタンを押してください。設定内容が正しい場合、以下のように「メッセージ送信完了」と表示され、送信先アドレスにテストメールが送信されます。

 執定) 	`11774k0	
	PC pc.com	E-Mailハ ^ヘ ラメータの設定 PowerChute Business EditionからE-Mali通知を送信するためには、次の3 種類の項目を正しく設定する必要があります。
		SMTPメールサーバ宅:(例 mailserver.domain.com) smtp.domain.com
		SMTPユーザ名(例username@domain.com) pobe-server@domain.com
\overline{a}		法信先E-Mail/F\じス(例username@domain.com) pcbe@domain.com
1) 13	4 4	<u>」</u> 道加 前取 「 方スト 「 メッセーン送信完了 「
<u>^⊮7*(</u>	Э	

10. ブロードキャストメッセージを選択すると次の画面が表示されます。「ドメイン全体」を選択した場合は、同一ネットワークセグメント内の同一ドメイン全体に通知されます。「特定のアドレス」を選択した場合は、欄に入力したホスト名または IP アドレスに対して通知が行われます。設定した内容が正しいかを確認するためには「テスト」ボタンを押してください。設定が完了したら「次へ」を押します。

• 数定711774140	
WWW.apc.com	アロート*キャスト通知の設定 目的のフロードキャスト通知のでは選択して下いい。PromoCharba Business Context + 小と回いドが、中の水でのニサルの通知であっか。 かい通知な違知することができます、特定のコーサル通知する場合は、該当す シューザのリアトレスをはネルを名指定すると要があります。 注意・プロードキャスト通知は Windows NT/20003/x72003/x734に対してのみ行われます。 ● ドダロン全体 ド特定のアトレス・
<u>^⊮7*(H)</u>	<u> えた </u> (前へ(B) (次へ(M)) (キャンセル(D)

※ ブロードキャスト通知により送信されるメッセージをクライアントマシン にて受信するためには、クライアントマシン側にて「Messenger」サービス が起動している必要があります。

※ Windows サーバにのみブロードキャスト通知を行うことが可能です。「特定のアドレス」欄に Linux サーバを指定した場合は通知が行われませんのでご注意ください。

11. 電源保護方針の設定を行います。電源障害や UPS ハードウェア障害に対する システムの対処方法に応じて、「サーバの稼働時間を最大限にする (ランタイムを重視)」または「安全性を重視」を選択することができます。どちらかを 選択し、「次へ」を押します。



[サーバの稼働時間を最大限にする(ランタイムを重視)]は、システムの運用時間を少しでも長くすることが重要な場合に選択します。この項目を選択した場合、電源障害時に UPS からの電源供給が可能な限りバッテリ動作を行った後、サーバのシャットダウンが開始されます。つまり、UPSのバッテリ残量がシステムを安全にシャットダウンするために必要なランタイムになるまでの間、サーバを稼動し続けます。
 電源障害により UPS のシャットダウンが行われた場合、電源が復旧するとすぐに UPS が再起動されます。システムを安全にシャットダウンするために必要な時間はお客様のサーバ毎に異なります。ご使用のサーバのシャットダウン必要時間を計測して、その時間を十分に超える値を設定

してください (50 ページの「10 シャットダウンプロセスについて」を 参照)。

[安全性を重視]は、システムの動作時間を高めるよりも、バッテリ残量が十分あるうちにデータの保存とシャットダウンを、余裕を持って行いたい場合に選択します。

この項目を選択した場合、電源障害時に UPS のバッテリ状態が 1 分間(デフォルト値) 継続すると、シャットダウンが開始されます。

電源障害により UPS のシャットダウンが行われた場合、バッテリが 90% 充電された時点で UPS からサーバへの電源供給が再開されます。

※選択した電源保護方針や電源障害時のシャットダウン開始時間はインストール後、PowerChute Business Edition コンソールから変更できます。

12. システムのシャットダウンについての説明が表示されます。内容を読んで「次へ」を押します。

 数定711774.60 	
ΔΡΟ	システムのシャットダウン
www.apc.com	
	(個別のデハイスに対してシャトダウンの設定を詳細に行うには、メインロソールの デバイスのフロバティがら、シャトダウン、を選択して下さい、砲にも、 アントフィル実行、このジットサインク所買時間、ファジュールシャトゲウン、および 電源障害時の動作などの設定を、デバイス(個別に行うことができます。
	特に、聞かれているファイルなどを安全に保存して閉じたり、シャットタウン前に コマンドンラィルを実行するために、シャットタウンパに100秒らでフルト価レル上かかる場 合には、`シャットタウン゙カテコリやの゙シャットタウンンークンプタィアロクボックスを使 って05のンャットタウンjが展映間数変更する必要があります。
10 B	
12 H	
<u>^⊮フ°⊞</u>	(前へ图) 次へ(!)> (キャンセル(!))

13. ここまでに設定した内容が表示されます。内容が正しければ「次へ」を押し ます。変更が必要な場合は「前へ」を押して変更箇所まで戻り、再度設定を 行ってください。



14. 次の画面が表示されると終了です。「完了」を押します。



- **15.** 以降、デバイスリストの設定画面が表示されます。操作手順は 29 ページの 「8.2 エージェントの登録」を参照してください。
- **16.** デバイスリストの設定が終わると、「製品のインストール」の画面に戻ります。 サーバが「インストール済み」となっていることを確認してください。

5.3 PowerChute Business Edition コンソールのインス トール

コンソールのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。



2. 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

owerChute Business Edition コンソールのセットアップ	×
使用許諾契約	
次の製品使用許諾契約を注意深くお読みください。	
使用許諾契約の残りの部分を表示するには、PAGE DOWNキーを押して下さい。	
American Power Conversion Corporation ソフトウェア使用許諾契約書	
本ソフトウェア使用許諾契約書の翻訳は、ユーザの便宜のみを目的として提供されています。詳細 は、下記のセクション11を参照してください。	
本ソフトウェア使用計耗契約者(以後)契約者())は、「ライセンサー」であろAmerican Power Conversion Corporation(以後) APO()およどスユーザ(以後)お客権())の間で結ばれた法律上の契約 であり、本契約者が付着しているAPO(ソフトウェアに関するものです。	
注釈 ホンフトウェア製品のボタンラベルが「同意します」と異なる場合『「はい」など)、「同意します」に	
使用許諾契約の条項にすべて同意しますか? L N に) を選択した場合、セットアフラカウラムは終了しま す。 PowerChute Business Editionを化ストルするには、使用許諾契約に同意する必要があります。	
(it) (it)	J

インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先フォルダを指定してください。指定が完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。(既にエージェントまたはサーバがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

PowerChute Business Edition コンソールのセットアップ	X
インストール先の選択	
セットアップがファイルをインストールするフォルタを選択してください。	
PowerChute Business Editionを次のフォルタヤニインストールします。	
このフォルタラこインストールする場合は、[次へ]をクリックして下さい。別のフォルタラこインストールする場合は、[参 照]をクリックして目的のフォルタを選択して下さい。	
- インストール先フォルダ	
C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition 参照	
く前へ 「次へ> キャンセル	

インストールフォルダ名にマルチバイト文字(ひらがな、漢字等)を使用する と、WebUIからの設定が正常に行えません。インストールフォルダ名はシン グルバイト文字(半角英数字)を使用してください。

 コンソールのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を 押します。



※インストール後、初めてコンソールを起動した際に次の画面が表示されます。記載されている内容を確認し、「はい」または「いいえ」を選択してください。



5.「製品のインストール」の画面に戻ります。コンソールが「インストール済み」 となっていることを確認してください。

6 PowerChute Business Edition v.7.0 イ ンストール (Linux 版)

※ すべてのインストール作業は root で実施してください。

※ PowerChute Business Edition がインストールされていない環境では、サーバと UPS をシリアルケーブルで接続しないでください。

Linux へは PowerChute Business Edition エージェントのみインストールします。

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために、 PowerChute Business Edition サーバおよび PowerChute Business Edition コンソー ルが必要となります。

6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合

※ご使用の環境によっては、メッセージ等の日本語表示ができない場合があります。 この場合、「kon」コマンド等で日本語表示モードにすることにより、日本語表示す ることが可能となります。

 CD-ROM ドライブに PowerChute Business Edition v.7.0 のCD-ROM 媒体を 挿入し「mount」コマンドにて CD-ROM ドライブをマウントします。

例)

mount /dev/cdrom /mnt/cdrom

2. 以下のコマンドを実行して PowerChute Business Edition をインストールします。

rpm -ivh /mnt/cdrom/Linux/pbeagent-7.0.0-419.i386.rpm

※エージェントは "/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent" にインストールされます。

6.2 config.sh による PowerChute Business Edition エージェントの設定

PowerChute Business Edition エージェントをインストール後の 設定

22 ページの「6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合」にて PowerChute Business Edition エージェントを新規インストールした場合は、以下の設定を行って ください。

1. 以下のコマンドを実行してください。

/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh

2. 以下のような表示になります。

最初にユーザ名、パスワードの設定を行います。ユーザ名、パスワードは 3~16文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+]},. /_の15文字が使用可能)を使用して設定してください。 以下の画面でユーザ名を入力します。

American Power Conversion PowerChute Business Edition Agent Configuration Utility

New Username >

ユーザ名を入力すると、次はパスワードの設定になります。以下の表示になりましたら設定するパスワードを入力してください。確認のためにパスワード入力は 2 回求められます。

※ここで入力するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管 理対象エージェントで共通でなければなりません。異なるユーザ名、パスワー ドを設定したエージェントがある場合、そのエージェントを管理するために は、各エージェントと同一のユーザ名、パスワードを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」コンポーネントがインストールされたサーバがそれ ぞれ必要になります。また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。

注意:パスワード入力の際は Windows の時とは異なり「*」も表示されませんのでご注意ください

New Password ← (1回目入力時) > Confirm New Password ← (2回目入力時) >

- 3. 次はシグナルタイプの設定を行います。以下の画面が表示されます。
 - Select the Signal Type
 - [1] : Smart
 - [2] : Simple
 - >

選択は数字の『1 『を入力してください。

4. 次は使用するシリアルポートを選択します。以下のように表示されます。

Select the serial port

- [1] : /dev/ttyS0
- [2]: /dev/ttyS1
- [3] : Other
- >

シリアルケーブルを接続しているポートが COM1 の場合は [[1]: /dev/ ttyS0」、COM2 の場合は [[2]: /dev/ttyS1」、それ以外のシリアルポートに接 続している場合は [[3]: Other」を選択してください。ここでの選択も同様に 数字の "1 "、"2"、"3" のいずれかを入力してください。

<"1" または "2" を選択した場合 >

5. の手順に進んでください。

<"3" を選択した場合 >

以下の表示になりますので、使用するシリアルポートのデバイス名をキー ボード入力してください。

Please type in the serial port

```
*Case-sensitive (ex: /dev/ttyS0) >
```

5. これまで設定してきた内容を確認するメッセージが表示されます。

Signal Type : Smart Share UPS : No Serial Port : /dev/ttyS0

Are the UPS settings correct (Yes or No) >

設定したシグナルタイプ、および使用するシリアルポートの情報が表示され ますので、設定内容が正しければ「Yes」、誤りがあり修正をする必要があれ ば「No」を入力してください。

「No」を入力した場合は 3. の画面に戻りますので、再設定してください。

6. 設定内容確認後に、PowerChute Business Edition エージェントを今すぐ起動 させるかどうかの確認メッセージが表示されます。

Start PowerChute Business Edition Agent? (Yes or No) >

このメッセージが表示されてから、サーバにシリアルケーブルを接続してください。

すぐに PowerChute Business Edition エージェントを起動させる場合は 「Yes」、後で手動起動またはサーバを再起動により PowerChute Business Edition エージェントを起動させる場合は「No」を入力してください。

以上で Linux サーバにおけるインストール作業は終了です。後は 29 ページの「8 コ ンソールの操作」を参照して Linux サーバをデバイスリストに登録してください。

config.sh を使用しての PowerChute Business Edition エー ジェントの設定変更

「config.sh」による設定変更を行う場合も必ず root 権限にて行ってください。

1. インストール後にユーザ名、パスワード、COM ポートの変更が必要になった 場合は、以下のコマンドを実行してください。

/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh

上記コマンド実行後、現在設定されているユーザ名、パスワードの入力を求められます。

American Power Conversion PowerChute Business Edition Agent Configuration Utility

Username > Password > 3. 正しいユーザ名、パスワードを入力すると現在設定されているユーザ名、パ スワードを変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。

ユーザ名、パスワードの変更を行われる場合、ユーザ名、パスワードは 3~16 文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+]},./_の 15文字が使用可能)を使用して設定してください。

下記はユーザ名を変更するかどうかの確認です。ユーザ名を変更したい場合は上記メッセージで「Yes」を、変更しない場合は「No」を入力します。

「Yes」を入力した場合は、新しいユーザ名を入力してください。

Would you like to change the current username? (Yes or No)
>

下記はパスワードを変更するかどうかの確認です。パスワードを変更した場合は上記メッセージで「Yes」を、変更しない場合は「No」を入力します。

Would you like to change the current password? (Yes or No) >

「Yes」を入力した場合は、以下の画面で新しいパスワー ドを入力してください。パスワードは確認のために、入力を 2 回求められます。

注意:パスワード入力の際は Windows の時とは異なり「*」も表示されませんのでご注意ください

New Password ← (1回目入力時) > Confirm New Password ← (2回目入力時) >

ここで入力するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管理 対象エージェントで共通でなければなりません。異なるユーザ名、パスワー ドを設定したエージェントがある場合、そのエージェントを管理するために は、各エージェントと同一のユーザ名、パスワードを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」コンポーネントがインストールされたサーバがそれ ぞれ必要になります。また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。間違えて入力した場合 は後から確認することができず、エージェントに接続できない等の問題が発 生する場合がありますので十分に注意して入力を行ってください。

4. 以降は PowerChute Business Edition エージェントのシグナルタイプ、使用する COM ポートの設定になります。これらの設定については 22 ページの 「PowerChute Business Edition エージェントをインストール後の設定」の 3.~6. を参照してください。

7 PowerChute Business Edition v.7.0 ア ンインストール

本章ではシステムから PowerChute Business Edition v.7.0 を削除する方法について 説明します。

※ すべてのアンインストール作業は管理者権限を持つユーザで実施してください。

※ PowerChute Business Edition コンソールを起動し、アンインストールする PowerChute Business Edition エージェントの登録を削除しておいてください。

※ PowerChute Business Edition コンソールは終了させておいてください。リモートサーバからも PowerChute Business Edition サーバへ接続していない状態(ログアウトした状態)でアンインストールを行ってください。

7.1 OS が Windows の場合 (エージェント、サーバ、コン ソール共通)

※ iStorage NS シリーズ以外のサーバでは 1. の作業は必要ありません。手順②から 作業を開始してください。

- ご使用の環境がiStorage NSシリーズの場合は、管理PCからWebUIでiStorage NS にアクセスし、ターミナルサービスを起動します。(以降の作業はすべて ターミナルサービス上で実施します。)
- 2. スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
- Windows 2000 の場合は「アプリケーションの追加と削除」を実行します。 Windows XP または Window Server 2003 の場合は「プログラムの追加と削 除」を実行します。
- 4. 現在インストールされているプログラム一覧の中から、削除したい PowerChute Business Edition コンポーネント(エージェント、サーバ、コン ソール)を選択します。
- 5. OS ごとに以下の手順を実施します。
 - Windows 2000 の場合 「変更 / 削除」ボタンを押します。
 - Windows XP の場合
 「削除」ボタンを押します。
 - Windows Server 2003 の場合 「変更と削除」ボタンを押します。
- 6. 以降、ウィザードの指示に従って作業を進めてください。
- アンインストールが終了したら必ずサーバに接続しているシリアルケーブル をサーバから抜いてください。ケーブルを抜いたことを確認したら、サーバ を再起動してください。

注意: PowerChute Business Edition をアンインストール後、フォルダやファイ ルがインストールフォルダに残る場合があります。PowerChute Business Edition のインストールフォルダを確認し、フォルダの中身とともに削除して下さい。

注意: iStorage NS シリーズでは、エージェントのアンインストール時に次の画面 が表示されます。

SS2003 - リモート デスタトップ - Microsoft Internet Explorer	_ []
owerChute Business Editionのセットアップ	
owerChute Business Editionのセットアック 7.0	
PowerChute Business Editionのセットアッフ*	
セットアッフ・ステータス	
PowerChute Business Editionのセットアップフロゲラムは、要求された処理を行っています。	
states (a) and a state (a)	
(水を) Cメニュ ロックされたファイルの検出	
■ 選択したオフションは、ファイルをシステムにインストールする、システムからアンインストールする、または	
■ 両方を要求します。必要とするファイル操作を実施中にロクされているファイル C*Program Files#APC#PowerChute Business Edition#agent#systemlogger#EventMessagedIIを	
検出しました。システム上にこのファイルを残しておく場合は、「無視」本文シを分ってしてくださ い、セットアップによるファイル操作を再試行するには、「再試行」を分ックしてください。また、	
システムが再起動すると割口操作を実行するには、「再起動」を切ってします。	
「江田のらこのがセージを表示しない。」	
再起動(形) 無視 再該行 キャンセル	
n-k 🕼 🔿 🔣 70/53.0)8fm/8/8k 🕅 Power/Dute Business 🔢 🕘 🖉	14:

「再起動」を選択しアンインストールを続行してください。

アンインストールの終了後に次の画面が表示されます。「今すぐコンピュータを再 起動する。」または「後でコンピュータを再起動する。」のいずれかを選択し、「完 了」を押してください。



「今すぐコンピュータを再起動する。」を選択した場合は「完了」を押すと直ちに サーバの再起動が行われます。「後でコンピュータを再起動する。」を選択した場合 は手動でサーバの再起動を行ってください。

7.2 対象サーバで直接アンインストール作業を行う場合 (Linux の場合)

作業はすべて root 権限にて行ってください。一般ユーザにてログインしている場合は、「su - 」コマンド等により root 権限になって、以下のコマンドを実行してください。

rpm -e pbeagent

※上記コマンドを実行した後、PowerChute Business Edition をインストール したディレクトリ(デフォルト:/opt/APCディレクトリ配下)にファイルが 残っていた場合はファイルを手動で削除してください。

※アンインストール時、下記メッセージが表示される場合がありますが、 PowerChute Business Edition をインストールしたディレクトリ配下のファ イルは削除されます。

 $\ensuremath{\texttt{T}}\xspace = -$:cannot remove /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/ bin - directory not empty

 $\texttt{T} \verbscale=-:cannot remove /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent-directory not empty$

- 2. プロンプトが表示されるとアンインストールは終了です。アンインストール を終えましたら、サーバからシリアルケーブルを抜いてください。
- 3. サーバからシリアルケーブルを抜いた後、サーバを再起動してください。
8.1 サーバへの接続

コンソールを使用して各エージェントや UPS の設定を行うためには PowerChute Business Edition サーバに接続しなければなりません。以下の手順で接続してください。

※ iStorage NS シリーズ等にインストールされた PowerChute Business Edition コ ンソールを使用する場合は、あらかじめターミナルサービスクライアントを使用して 対象のサーバに接続しておいてください。

※ Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用してターミナル サーバに接続し、PowerChute Business Edition コンソール、デバイスリストウィ ザード、および設定プロファイルウィザードを起動した場合、画面が正しく表示され ません。これは「ターミナルサービスクライアント」の表示可能色数が少ないために 発生します。

1. コンソールを起動すると以下の画面が表示されます。接続するサーバの「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

• 1940		
	コンソールを接続するPowerChute Business Edition サーバのユーザ名とパスワートを入力 して下さい。	
*	2ーザ名: apc パスワード: **** サーバ: 127.00.1 。 ローカルサーバの検出	
(接続句) (キャンセル◎) ヘルフ*(出) □ ユーザ・名とハネワートを保存する		

- 「ローカルサーバの検出」をクリックするか、PowerChute Business Edition サーバがインストールされているサーバの IP アドレスまたはホスト名を 「サーバ」欄に入力します。(過去に接続したことがあるサーバは「サーバ」欄 のドロップダウンリストから選択することも可能です。)
- 3. 以上の操作でサーバに接続し、ログインすることができます。

8.2 エージェントの登録

PowerChute Business Edition サーバに管理するエージェントが登録されていない 場合、PowerChute Business Edition サーバが管理するエージェントを登録しなけれ ばなりません。以下の手順で登録を行ってください。登録後に変更することも可能で す。コンソールのメイン画面で[ツール]→[デバイスリストの設定]を選択するか、 または、コンソールのデバイリストフレーム上において、右クリックで表示されるメ ニューオプションより[デバイスの追加]を選択し、2.以降の手順を実行してくださ い。 コンソールにログインすると次のメッセージが表示されますので「はい」を 押してください。「いいえ」を押すと追加せずにコンソールを表示します。

•	
20 このサーバが管理しているAPC PowerChute Business Edition エージェントはありません。エージェントを追加しますか?	
(W\$(V)) (W11)	

デバイスリストの設定画面が表示されます。検出されたデバイス欄に、ネットワーク上の同じ「ユーザ名」、「パスワード」で設定されたエージェントがインストールされているサーバー覧が表示されます。追加するサーバを選択し、「追加」を押します。

● デバイスリストの設定			
デハイスリストの設定			1
デハイスリストには、最高25台まで([**	DAPC UPSデバイス 適用"]をりリックして下	を追加できます。変更 うさい。	が完了したら、
検出されたデバイス:	:	現在のデバイスリスト	
RedHat7.3 Win2000 Win2003	1017-7) (
<u>デバイス検出の設定</u> デバイスリストには0台のデバイスがありま	्र :च.	011()) (++)/t/l(© ^1/7°@

※デバイスリストに登録できるデバイスは最大 25 台です。25 台を超えるデバイスを登録しようとすると、「追加」を押した際に以下のメッセージが表示 されます。

•	008
Indue of	バイスを追加できません。デバイスリストのデバイス数が限度に達しました。
	<u>O</u> K

3. 現在のデバイスリスト欄に追加したサーバが表示されます。設定を反映する には「適用」を押してください。

● デン・イスリストの設定	
デハイスリストの設定	A
デハイスリストには、最高25台までの [^う	DAPC UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、 適用「」をワリックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト
Win2000	◆ RedHat7.3 ◆ Win2003 新規
デバイス検出の設定	(適用(A) (キャンセル(Q) (へルフ*(H))
デッバイスリストには2台のデッバイスがありま	す。、2を追加しました

4. デバイスリストへの追加が完了したら次の画面が表示されます。「閉じる」を 押して設定画面を終了してください。



※ 既に他の PowerChute Business Edition サーバに監視されているサーバを 追加しようとすると次の画面のようにエラーが表示されます。

5. コンソールのメイン画面に戻ります。追加したサーバが表示されていることを確認してください。(PowerChute Business Edition コンソールから、デバイスリストの設定を行った場合以外には以下の画面は表示されません。つまり PowerChute Business Edition サーバインストール時の「デバイスリストの設定」では、以下の画面は表示されません。)

 APC F 	owerChute Business Edi	tion Basic			- • ×
コンソール(©)	コンソール(C) 表示(V) ソール(T) ヘルフ*(H)				
🖬 🖪 🎒	🚱 🗰				
	「林本小名」) रन-१र	(UPSモデル	(I-ジェントのOS	
	Win2003	正常	Smart-UPS 1000	Windows 2003 5.2	
ステータス	V RedHat 7.3	止常	SMART-UPS 700	Red Hat Linux 7.3	
-					
電源 イヘントサマリ					
st.					
電圧分析					
リスクアセスメント	テンパイスから着状されていません	υ			
デバイスリストに	」 よ2台のデハドイスがあります。		接続先:Win2003		

※登録した PowerChute Business Edition エージェントの IP アドレスを変更 した場合、デバイスリストから一旦削除して再登録を行わなければなりませ ん。PowerChute Business Edition サーバの IP アドレスを変更した場合は、コ ンソールでログインする際に「ローカルサーバの検出」を実施するか、変更 後の IP アドレスを直接入力しなければなりません。

登録した PowerChute Business Edition エージェントをデバイスリストから 削除するには、33 ページの「8.3 エージェントの削除」を参照してください。 ※ PowerChute Business Edition コンソールがインストールされているマシ ンの IP アドレスの変更は、PowerChute Business Edition コンソールを終了 してから行ってください。 ※ PowerChute Business Edition コンソールと PowerChute Business Edition サーバ間の通信および、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント間の通信には、TCP/IP プロトコルによるソケッ ト通信が使用されます。あらかじめ PowerChute Business Edition コンソー ルと PowerChute Business Edition サーバ間および、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント間で ping コマ ンドを実行し、共に通信が確立されていることを確認した上でご使用くださ い。

注意:各サーバがネットワーク上で接続され正常に通信できる状態にもかか わらず、「PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。」 等のメッセージが表示された場合は、コンソールのメイン画面で[表示]→[設定]を選択して次の画面を開きます。「ネットワーク」タブを選択し、リク エストタイムアウト時間を長くしてください。(図の囲まれた部分で設定しま す。)



※[ホスト名を解決する]および[ドメイン名を含める]は、システムのホストアド レスをコンソールでどのように表示するかを設定します。[ホスト名を解決する]の み有効にした場合、コンソールではホスト名のみを表示します。[ホスト名を解決す る]を無効にすると、[ドメイン名を含める]の設定は反映されず、コンソールでは IP アドレスのみを表示します。両方を有効にすると(デフォルト)、コンソールでは ホスト名とドメイン名が表示されます。システムのホスト名が解決できない場合は、 IP アドレスが表示されます。

• 7779-7420BE - • • ×
全般 ネットワーク データ収集
IP7トリスの代わりにネットワークアトリスを表示する際、 ホスト名又はフルトメイン名を有効にします。
 ▼ ホスト名を解決する ▼ ドジイン名を含める
りクエストタイムアクト: 20 <20 秒
「日日」(日) 「日日」(日) 「日日」(日) 「日日」(日) 「日日」(日) 「日日」(日) 「日」」(日) 「日」」(日) 「日」」(日) 「日」」(日) 「日」」(日) 「日」」(日) 「日」」(一) 「日」」(一) 「日」」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」」)(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一) 「」)」(一)」)(一) 「」)」(一)」)(一) 「」」)(一)」(一) 「」」)(一)」(一)」)(一) 「」」)(一)」(一)」)(一)」(一)」)(一)」(一)」)(一)」(一)」)(一)」(一)」

8.3 エージェントの削除

登録した PowerChute Business Edition エージェントをデバイスリストから削除す るには、コンソールのメイン画面で[ツール]→[デバイスリストの設定]を選択す るか、または、PowerChute Business Edition コンソールのデバイリストフレーム上 で削除したいサーバにカーソルを合わせ、右クリックで表示されるメニューオプショ ンより[デバイスの削除]を選択し、デバイスリストから削除してください。

デバイスリストの設定画面が表示されます。現在のデバイスリスト欄に、登録されているエージェントがインストールされているサーバー覧が表示されます。追加するサーバを選択し、「削除」を押します。

• デがイスリストの設定	000	×)
デハイスリストの設定	行	٦
デバイスリストには、最高25台までの [^う	JAPC UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、 適用「」をワリッウして下さい。	
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト	
	C	
デバイス検出の設定		
デハイスリストには3台のデハイスがありま	₫₀	

検出されたデバイス欄に削除したサーバが表示されます。設定を反映するには「適用」を押してください。

● デゕ゚゚イスリストの設定			- O ×
デハイスリストの設定			1
デハイスリストには、最高25台までの [^う	DAPC UPSデバイス 適用"]をクリックして	を追加できます。変更対 Fさい。	が完了したら、
検出されたデバイス:		現在のデバイスリスト:	
Ӿ Win2000		RedHat7.3 Win2003	
テンバス検出の設定	新規		
		適用(A) (キャンセル(() <u>~117°H)</u>
デバイスリストには2台のデバイスがありま	す。、1を削除しまし	た	

3. デバイスの削除が完了したら「キャンセル」を押して設定画面を終了してください。

8.4 サーバが自動検出されない場合の対処方法

デバイスリストヘサーバを追加する際にサーバが自動検出されない場合は、項目 1~3 の確認・修正を行い、自動検出が行われることを確認してください。項目 1~3の確 認で異常がない場合に、自動検出が行われない場合は項目 4 の手順を実施してくだ さい。

- 1. デバイス検出の設定が正しく行われていることを確認してください。
 - **a.** [デバイスの検出の設定]をクリックします。

 デバイスリスト0設定 	
デバイスリストの設定	
デバイスリストには、最高25台までの [^^])APC UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、 適用"]をワリックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト:
	111日
<u>デ^ッハイス検出の設定</u> デ ^ッ ハイスリストには0台のデ ^ッ ハイスがありま	(147°₩) (147°₩) (147°₩)

b. デバイス検出の設定ダイアログボックスが表示されますので、登録を行いたいサーバが属しているIPセグメントの登録が行われていることを確認してください(四角で囲まれた部分を確認します)。登録が行われていない場合には、「IPセグメント」を入力し、[追加]を押します。



- PowerChute Business Edition サーバがインストールされているマシンから、 登録を行いたいマシンに対して ping コマンドを実行しネットワーク接続が確 立していることを確認してください。
- PowerChute Business Edition サーバに設定されている「ユーザ名」、「パス ワード」と、追加を行う PowerChute Business Edition エージェントに設定 されている「ユーザ名」、「パスワード」が同じものを使用しているか確認し てください。

「ユーザ名 / パスワード」の確認方法

<PowerChute Business Edition サーバ> PowerChute Business Edition コンソールを使用して対象サーバへのロ グインを行ってください。ログインできない場合は入力したもの以外の 「ユーザ名」、「パスワード」が設定されています。

<PowerChute Business Edition エージェント> WebUIを使用して対象サーバにログインしてください(ログイン方法は インストールガイド 41 ページの「9 WebUI での操作」を参照してくだ さい)。ログインできない場合は入力したもの以外の「ユーザ名」、「パ スワード」が設定されています。

- 4. 以上 1~3 の確認において異常が見られない場合は、以下の手順にて追加を行ってください。
 - **a.** [新規]ボタンを押します。

 デバイスリストの設定 	
デハ・イスリストの設定	1
デバイスリストには、最高25台まで([*	DAPC UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、 適用「]をリックして下さい。
検出されたデバイス	現在のデバイスリスト
ポッパク絵山の設守	10月17日
7.771ス境出の設定	●11月() [++>セル@] <mark>^ルフ°()</mark>
デッハ・イスリストには0台のデッハ・イスがありま	tə.

b. "現在のデバイスリスト "欄に表示される「新規デバイス」に、追加するホスト名または IP アドレスを入力してください。

● デバイスリストの設定	
デハイスリストの設定	行
デハドイスリストには、最高25台まで([***	DAPC UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、 適用「」をワックして下さい。
検出されたデッパイス	 (一前原本) 新規
2 /1 1 ×18 ±DUERJE	適用(A) (キャンセル(C) (11,7°(H)
デッハイスリストには1台のデッハイスがありま	なす。、1を追加しました

C. [適用]ボタンを押します。

• デルイスリストの設定	
デハイスリストの設定	
デハイスリストには、最高25台までの [^う)APC UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、 適用「」を外ックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデハイスリスト:
	 ④ Ww2003 ④ - 利政 新規
テルイス検出の設定	通用(A) [+>>セル©) ヘルフ*(H)
デバイスリストには1台のデバイスがありま	す。、1を追加しました

d. 以下の画面が表示されると追加は完了です。[閉じる] ボタンを押して終了してください。



8.5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ

(1) 設定プロファイルアクセス失敗メッセージ

デバイスリスト設定ウィザードを使って既存のデバイスリストを変更する際に、設定 プロファイルが見つからない場合は、次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	説明
デフォルトの設定プロファイルが作 成されていません。デバイスをデバイ スリストに追加するには、設定プロ ファイルを作成する必要があります。 作成しますか?	設定プロファイルが存在していません。プ ロファイルを作成する場合は、[はい]をク リックしてください。プロファイルがない と、デバイスリスト設定ウィザードにアク セスすることはできません。
現在の設定プロファイルを取得する ことができません。PowerChute Business Edition サーバから応答があ りません。もう一度実行しますか?	問題が解決しない場合は、39 ページの 「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照して ください。

(2) デバイスリスト設定ウィザードのメッセージ

デバイスリスト設定ウィザードの使用時に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
デバイスリストの変更は適用されま せん。本当に終了しますか?	デバイスリストに変更内容を適用する前に[キャンセル]がクリックされました。[はい] をクリックすると、変更内容は破棄されま す。
このサーバが管理するデバイスは不 明です。PowerChute Business Edition サーバからの応答がありませ ん。	ウィザードを終了した後、再起動してくだ さい。それでも問題が解決しない場合は、 39 ページの「(5) 通信障害関連メッセー ジ」を参照してください。

メッセージ	説明
PowerChute Business Edition サーバ からの応答がありません。もう一度操 作を行ってください。	ウィザードを終了した後、再起動してくだ さい。それでも問題が解決しない場合は、 39 ページの「(5) 通信障害関連メッセー ジ」を参照してください。

(3) 検出過程のメッセージ

[検出の設定]ダイアログボックスを使って、検出手順時に検出する IP セグメントの リストを変更する際に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
次の検出状態を設定できません: PowerChute Business Edition サーバ から応答がありません。もう一度実行 しますか?	問題が解決しない場合は、39 ページの 「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照して ください。
検出セグメントを判断できません。 PowerChute Business Edition サーバ から応答がありません。もう一度実行 しますか?	問題が解決しない場合は、39 ページの 「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照して ください。
検出セグメントは 10 個までしか指定 できません。	[検出の設定] ダイアログには、すでに PowerChute Business Edition が検出する IP セグメントが限度数まで指定されていま す。

(4) サマリの変更メッセージ

このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
< ホスト名 > からの応答があ りません。	このシステムをもう一度追加してください。それ でも問題が解決しない場合は、39 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
<ホスト名 > は、すでにデバ イスリストに存在しています。	システムはすでにデバイスリストに存在していま す。
<ホスト名 > がデバイスリス トにありません。	システムはデバイスリストからすでに削除されて います。
<ホスト名>を追加しました。	このシステムをデバイスリストに追加しました。
<ホスト名 > を追加できません。すでに < サーバ名 > が管理しています。	このシステムは、他の PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに登録されていま す。同じシステムを複数の PowerChute Business Edition サーバで監視することはできません。

ログエントリ	説明
<ホスト名>を追加できません:デバイスの限度数に達しました。	デバイスリストには、すでに PowerChute Business Edition サーバのライセンスで許可され ている限度数までのシステムが追加されています。
< ホスト名 > が見つかりません。	PowerChute Business Edition サーバは、このシ ステムを見つけることができません。システムが 存在していない、システムがネットワークに TCP/ IP で接続されていない、または PowerChute Business Edition エージェントがシステムにイン ストールされていない可能性があります。
<ホスト名 > にログインできません。	このシステムの PowerChute Business Edition エージェントは、PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用してい ません。
<ホスト名>の追加に失敗し ました。	このシステムをもう一度追加してください。それ でも問題が解決しない場合は、39 ページの「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
設定プロファイルを < ホスト 名 > に適用できませんでした。	一般的にこのメッセージは、サポートしていない UPS をシステムが使っていることを示していま す。ただし、設定プロファイルの適用時に該当す るシステムがシャットダウン中だったり、通信(ネットワークまたはシリアル)が失われた場合に も、このエントリが記録されることがあります。
<ホスト名>の削除に失敗し ました。	このシステムを削除するために、設定ファイルに アクセスすることができません。
<ホスト名>を削除しました。	このシステムをデバイスリストから削除しました。
<ホスト名>は省略しました。 すでにリストに追加されてい ます。	同じシステムを複数定義しています。例えば、同 じシステムをホスト名と IP アドレスの両方で重複 して指定しています。

メッセージ	説明
応答しないシステムがありま	すべての変更が成功した訳ではなく、デバイスリス
す。デバイスリストを更新し	トは成功した変更内容だけを反映することを表して
ます。	います。
デバイスリストの変更が完了	すべての変更が完了しないまま終了しようとしてい
していません。本当に終了し	ます。[はい] をクリックした場合、正しく変更が
ますか?	完了した設定だけが有効になります。
デバイスリストを更新します。	すべての変更を完了する前にダイアログボックスを 終了した場合に表示されます。終了するまでに行っ た変更内容で、デバイスリストを更新することを表 しています。

(5) 通信障害関連メッセージ

問題の原因として以下のことが考えられます。

● ネットワークの混雑またはネットワーク障害により、PowerChute Business Edition コンソールの[アプリケーションの設定]ダイアログボックスにて設 定されている、[リクエストタイムアウト時間]に指定された時間(デフォル トでは 20 秒)が経過する前に、通信障害が発生した。

注意: PowerChute Business Edition コンソールから [リクエストタイム アウト時間] の値を変更することができます。

- 応答を受信する前にネットワーク通信が失われた。
- システムが存在していない、システムが停止している、またはシステムがネットワークから切この断された。
- システムが PowerChute Business Edition エージェントを使用していない、 エージェントが動作していない、または PowerChute Business Edition エージェントが PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用していない。

<PowerChute Business Edition エージェントサービスの動作状態を確認 する方法 >

(Windows の場合)

PowerChute Business Edition エージェントのサービス名は「APC PBE Agent」です。

このサービスの状態が "開始"になっていれば、サービスは動作中です。

[スタート]→[設定]でコントロールパネルを開き、「管理ツール」を選択して「サービス」を選択してください。

(Linux の場合)

Linuxサーバにインストールされた PowerChute Business Edition エージェントのサービスが動作している場合、下記ファイルが存在します。そのファイル内に記載されている番号が現在動作中の PowerChute Business Edition エージェントのプロセス ID です。

/etc/pbeagent.pid

PowerChute Business Edition エージェントが動作しているかどうかを確認 するためには、kon コマンド等によりコンソール画面で日本語表示が可能な 状態にし、下記コマンドを実行してください。

cat /etc/pbeagent.pid

<PowerChute Business Edition が動作中の場合 >

数字 (PowerChute Business Edition のプロセス ID) が表示されますので、以下の例 のように「ps (PowerChute Business Edition のプロセス ID)」コマンドを実行して そのプロセスが存在しているかを確認してください。

(例) # cat /etc/pbeagent.pid 1049 # ps 1049
PID TTY STAT TIME COMMAND
1049 ? S 0:04 /bin/java/jre/1.4/bin/java
-Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/
application.j

<PowerChute Business Edition が動作していない場合 >

以下のようなエラーメッセージが表示されます。

cat: /etc/pbeagent.pid: そのようなファイルやディレクトリはありません。 エラーメッセージが表示された場合は、下記コマンドにより PowerChute Business Edition がインストールされているかの確認も行ってください。

rpm -q pbeagent

出力結果にパッケージ名が表示されない場合、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていません。

パッケージ名が表示された場合は、下記コマンドを実行して PowerChute Business Edition エージェントを開始させてください。

/etc/init.d/PBEAgent start

注意:ps コマンドにて現在動作中の PowerChute Business Edition エージェン トのプロセス ID を確認した場合、ご使用の環境によっては「/etc/pbeagent.pid」 ファイルに記載されているプロセス ID のプロセスと同じようなプロセスが複数表 示される場合があります。これは Java の仕様によるものであり、PowerChute Business Edition の動作に影響はございません。

(例) # cat /etc/pbeagent.pid 1049 # ps awx PID TTY STAT TIME COMMAND 1049 ? S 0:04 /bin/java/jre/1.4/bin/java -Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/ application. 1099 7 0:00 /bin/iava/ire/1.4/bin/iava S -Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/ application. 1100 ? S 0:02 /bin/java/jre/1.4/bin/java -Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.iar:./lib/ application.

.....

ブラウザを利用して各エージェントの設定を WebUI から直接行うことにより、コン ソールを用いるよりも細かい設定を行うことができます。本章では WebUI の使用方 法について説明を行います。

注意:Windows Server 2003 サーバから WebUI を使用して各エージェントの 設定を行う場合は、以下の WebUI 操作を行う前に必ず P.105 を参照し、Internet Explorer の設定を確認してください。

注意:MIRACLE LINUX Standard Edition 2.1 サーバから WebUI を使用する場 合、画面左側のメニューにおいて全角文字が表示されないことがあります。その場 合、Netscape のメニューより[編集]-[設定]を選択し、画面左側のツリー(カ テゴリ)より、[表示]-[フォント]を選択します。画面右側の「ドキュメントで 他のフォントを使用できるようにする」のチェックを外して下さい。

9.1 Java Runtime Environmentの確認

WebUI 機能を利用するためには、クライアントマシンに Java Runtime Environment (以下 JRE と省略)がインストールされている必要があります。また、使用するクラ イアントマシンの OS により、使用可能な JRE のバージョンが異なります。

- Windows マシンがクライアントの場合、JRE v1.4.1 または v1.4.2 をご使用 ください。
- Linux マシンがクライアントの場合、JRE v1.4.1 をご使用ください。

ここではクライアントマシンとして Windows を使用した場合の、JREの確認手順を示します。以下のいずれかの確認手順により JRE v1.4.1 以降がインストール済みかを確認してください。インストールされていない場合はサン・マイクロシステムズ社の Web サイトよりダウンロードし、インストールしてください。

注意:マイクロソフト社より提供されている「**32** ビット **Microsoft** 仮想マシン」 では **WebUI** 機能を利用できませんのでご注意ください。

<コマンドプロンプトを使用した確認手順 >

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

java -version

JRE がインストールされている場合、そのバージョン情報が表示されます。



<Internet Explorer を使用した確認手順 >

1. Internet Explorer メニュー [ツール]を選択してください。

JRE がインストールされている場合、以下のように「Sun の Java コンソール」 メニューが表示されます。「Sun の Java コンソール」が表示されていない場 合は、JRE がインストールされていません。



2. 「Sun の Java コンソール」メニューを選択してください。

「Java コンソール」ウィンドウが表示されますので、JRE のバージョンを確認 してください。



9.2 エージェントへの接続

ブラウザで「http://IP アドレス:3052」にアクセスします。アドレス中の「IP アドレス」は設定を行いたいエージェントの IP アドレスに置き換えます。エージェントの IP アドレスが 172.16.1.87 の場合は「http://172.16.1.87:3052」にアクセスします。



この画面が表示されたら、エージェントに設定されている「ユーザ名」、「パスワー ド」を入力し、「ログイン」を押します。

9.3 エージェントの設定

WebUI でエージェントに接続すると次の画面が表示されます。左側のメニュー(四角で囲まれた部分)を利用して、接続された UPS の設定およびイベント発生時の動作設定等を行うことができます。



右上の「i」をクリックすると、画面にヘルプ情報が表示されます。

🚰 http://172.16.1.87:3052/sec	urity/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer	- 0
ファイル(E) 編集(E) 表示(V)	お気に入り(4) ツール(1) ヘルプ(出)	1
G 🛒 • 🕤 • 💌 😰 🐔 🔎	🖻 検索 🧙 お気に入り 🔮 メディア 🧑 🎰 🎭 🚍	
アドレス(D) 🕘 http://172.16.1.87:30	52/security/login?referrer=/	💌 🔁 移動 リンク
PowerChute		Smart-UPS 1000
Business Edition	www.apc.com	
172.16.1.87	システムステータスサマリ	?
	UPSシステムステータス	
Smart-UPS 1000	-faffan- ha shi- di.	
	ナガイスステージス オンライン UPSの現在の動作状態です。	
/ 115 /F > ====================================	連絡先情報	
▶ 保護されたシステム	連絡先の名前 UPS保守担当の責任者名です。	
▶ ^&7*	システムの場所 システムが配置されている物理的な場所です。	
	更新	
🔄 アブレット LoginApplet started		● 信頼済みサイト

WebUIの各設定項目については、左側の各メニューを選択後に表示される画面で『?』 を選択すると表示されるオンラインヘルプも参照してください。



例として、WebUIで「OSシャットダウン待機時間」の値を変更する手順を次に示します。

「OS シャットダウン待機時間」とは OS がシャットダウンを開始してから、UPS が実際にサポートしている機器への電源供給を停止するまでの時間です。

注意: PowerChute Business Edition コンソールからは、[シャットダウン]-[シャットダウンシーケンス]で表示される「OS シャットダウンに必要な時間」で 設定します。(詳細については 50 ページの「10 シャットダウンプロセスについて」を参照してください)

左側のメニューで [保護されたシステム]-[シャットダウンの設定]を選択すると以下の画面が表示されます。

「設定」を選択してください。

http://172.16.1.87:3052/securi	ly/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer
ファイル(E) 編集(E) 表示(W) お	(に入り値) ツール① ヘルプ(値) 🧣
3 戻る • <u>○ · 区</u> 🗈 🏠 🔑	統 👷 お気に入り 🔮 メディア 🥑 🍰 😓
アドレス(D) 🙋 http://172.16.1.97:3052	'security/login?referrer=/ 💽 記録 リンク
PowerChute Business Edition	Smart-UPS 1000
172.16.1.87	(シャナジウンシークンスタイジ シャットウンシークンスにかかる時間 5公
Smart-UPS 1000	2-サが入力した。シャナタウシシータンス巻売了するまでに必要な時間です。 ローパッテザ信号時間 2 分
▶ ፈላ፡ንኑ	UPSからこの信号が通られると、たたちに296月ダウンクロセスが開始します。
▶ テ゚ー9uク゚	コマントウァイムを実行する いいえ ジャパダウンジークン20年にユーザが設定したコマントウァイルを実行するかどうかを示します。
- 保護されたシステム シャットダウンの設定	OSシャットゲント特徴時間 当分 設定なれたアバナアルの気行後の5がシットサンプもまでに必要な最大特徴です。この持続特徴を経過すると、UPSは出力を停止し保護されていらパス れの考慮を防止する。
システムの設定 すぐにサーパをシャットをウソ	OSyeyHy'929(7* 94918'92
パージャン情報	OSの両記動を有効にする はい 入力電源が関ロした際にシステムの電源をわれにするかどうかを示します。
► N#2*	UPS 再起動持復(容量) 90 % UPSはバッグがこの容量に悪いた後再起動します
	UPS再起動待器(容量) 0 分 UPS再起動待器(容量)に通じてから、システムへの電源供給を再開するまでの時間(役)を指定します。
	E-Mailを有効にする いいえ バッジウのE-Mail受信を有効にしているかどうかを示します。
	2-サジ通知を有効にする いいえ シャパタウン時の2-サジ通知が有効になっているかどうか、また、通知する2-サ、および通知問題(通知を提り返す場合)を示します。
	ログを記録する 5k-1957)を通灯に記録するかどうかを示します。
	設定
夏アプレット LoginApplet started	◎ 信頼(済みサイト

「OS シャットダウン待機時間」の値を変更する場合、ドロップダウンメニューにより値を選択します。選択可能な値はご使用の UPS 装置に依存いたします。詳しくは UPS 装置添付のマニュアルを参照してください。

http://172.16.1.87:3052/seci	rity/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer	X
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) :	3気に入り仏) ツール① ヘルプ(出)	1
🔇 戻 • 🕤 - 💽 😰 🐔 差	検索 👷お気に入り 🜒 メディア 🔗 🍰 🍃	
アドレス(D) 🛃 http://172.16.1.87:30	2/security/login?referrer=/	💌 🛃 移動 リンク 🎙
PowerChute Business Edition		Smart-UPS 1000
172.16.1.87	システムシャットサウンの 読定	?
) Smart-UPS 1000	0095075774748441回は3011年 ローランダイムしさい値 ユーザガンパカした。シャパタウンシークンスを完了するまでに必要な時間です。	
▶ データログ 	□-パタテラ信号時間 [2 二 分 UPSからこの信号が送られると、ただちにジャッドゲワンプロセスが開始します。	
ジャットダウンの設定 システムの設定 すぐにサールをシャットダウン パーション情報	OSのシャナチウン OSのシャナチウンド集内国 国際コオトンをわりったのの男子後のSが、サゲロ うんの意思を切えます。 200	待線時間を超過すると、UPSは出力さ停止し採練されているタス
k ∩\$7*	059+19/19/34(7) 200 7 2 UPS電査員採目時の設定 300 300 300 050 再記載者報知にする F 300 300 ハブ電影が開朗したされた、0月24気器動する場合に選邦します。 5 5 5	
	UP5時起動物数(29) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	老指爱し去す。
🛃 アプレット LoginApplet started		

変更した後は画面下の『適用』ボタンを押してください。

ŀァイル(E) 編集(E) 表示(V) お	気に入り(④) ツール(①) ヘルプ(日)	
)戻る・〇・区 🗈 🏠 🔎	検索 🧙 お気に入り 🔮 メディア 🕢 🍰 🍡 🕞	
ドレス(D) 🛃 http://172.16.1.87:305	/security/login?referrer=/	💌 🛃 移動 リン
PowerChute Business Edition	МИТ. ЛЕ С ОП	Smart-UPS 100
172.16.1.87	指続しているすべてのユーサルに通知 □ ドメリン(Windows)また13シスタム(Linux)に招称していたすべてのユーサルに送信します。	
Smart-UPS 1000	設定されている受信者に通知 「 フロードキスト通知の受信者として設定されているアドルルに通知します。	
イヘント ティータロウ ⁴	繰り返し通知する	
保護されたシステム	通知問題:	
シャットダウンの設定	א <i>ו</i> ילאלאנ	
ッステムの設定 すぐにナーパをシャットがウン パーション情報	コ ?ンドウァイ&を実行する OSシャナダウンを行う前にコ?ンドウァイルを実行する場合に選択します。	
	コマンドファイル名の選択 select command file 単行するコマルファイルを選択 ます。	×
47. -	172ドワッイを実行時間 して: して分: 秒 上で選択したコアハラッドルの実行に要するおよその特別を推定します。	
	イベントの記録	
	イベットを記録する場合に選択します。	
	(適用)	

注意:この『適用』ボタンを押さずに左側の他のメニューを選択すると、変更の内容 が反映されません。

「適用」ボタン押下後、以下のような画面が表示されますので、変更が反映されていることを確認してください。



9.4 イベントアクションの設定

各イベントのイベントアクションの設定は WebUIからのみ設定可能です。 左側のメニューの [イベント]-[アクション]を選択し、各イベントのイベントアク ションの設定します。

例として、「バッテリ状態しきい値超過」の値を変更する手順を次に示します。

展5 * 🕑 * 🗶 🔝 📢 🗡	「検索 😯 お気に入り 🔮 メティア 🚱 🔝 🎭 🔛	1				
「レス®」 🔁 http://172.16.1.87:30	52/security/login?referrer=/				-	2 彩動
PowerChute Business Edition	МРС			,	Smar	t-UPS 10
172.16.1.87						?
	重大	ロケを記録する	ユーザ5週知	E-Mail	コマントファイル	シャットダウン
Smart-UPS 1000	バッテリ状態時に適信切断	9				9
	UPS内部温度LIPLI值超過	9				٩
- 449F	ローパッテリ状態	9				
u)*	왕동	ログを記録する	ユーザう通知	E-Mail	3721776	シャットダウン
70.5.5	<u>常源障害</u>	9				
	UPS過負荷	9				۹
×18.46	<u>UPSセルフテスト失敗</u>	9				
ロゲの設定	通信切断	9				
7°-909°	通信なし	9				
	バッテリ状態。さい値超過	9				
保護されたシステム	UPS負荷しきい値超過	9				
	利用できるランタイム時間が不十分	9				
^\$7*	バッテリ交換要	9				
	UPS内部温度整理	9				
	AVR Boost有効	9				
	AVR Trim有効	9				
	バッテリ切断	9				
	情報	の汚記録する	2-ザ通知	E-Mail	37747766	シャットダウン
	電源換出	9				
	UPS過負荷状態解決	9				
	UPS負荷しきい個内	•				
	シャットダウンキャンセル	•				
	シャットダウン中					

「バッテリ状態しきい値超過」とは停電(電源障害)が発生してから、OSシャットダウンが開始されるまでの時間の設定値です。この値の詳細については 58 ページの「10.4 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)」を参照してください。

注意: PowerChute Business Edition コンソールでは「詳細項目の表示」チェッ クボックスをチェックしている状態で、[シャットダウン]-[電源障害]を選択して 表示される画面の、「UPS のバッテリ状態が次の時間経過後:」で設定します。 [イベントアクション]-[バッテリ状態しきい値超過]を選択し、必要な設定を行ってください。

戻る • 🕤 - 🖹 🔹 🏠 🎾	🤇 検索 🧙 お気に入り 💐 メディア 🔗 🍰 🕻	3				
レス(D) 🛃 http://172.16.1.87:30	52/security/login?referrer=/					- 🔁 移動 リ
PowerChute Business Edition	WWW.apc.com	the second		,	Smar Mil	t-UPS 10
172.16.1.87	410179910					?
	重大	ロケを記録する	ユーザ通知	E-Mail	37217746	シャットダウン
Smart-UPS 1000	バッテリ状態時に通信収断	9				9
	UPS内部温度Lさい植植漫	9				٩
45%	ローパッテリ状態	•				۲
u?"	왕 놈	ロケを記録する	ユーザ行動知	E-Mail	3724776	シャットダウン
アクション	重調障害	9				
***	UPS過負荷	9				٩
A16-8	UPSセルフテスト失敗	9				
uy oyace	通信切断	9				
7'-909'	2010/012	•				
10	バッテリ状態しきい道識違	•				
18課されたソメアム	UPS算符IL用L始報告通	9				
	利用できるフノダイム時間の小十分	3				
	ハッテリン院要	3				
	AVR BoostH97	3				
	AVR Trimes	3				
	AND TO TO DET	a húter til et r	n All'Sho		and in the	Sec. 1 Million
	Tit tell Tit tell	u7で#20年9つ	2~9 1890	E-Mail	21/17/17/16	7691397
	1000法自2019年8月23年					
	Un characteristic and the					
	Create APPLICA STREET					
	2 1 21 2 2 2 1 1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2	•				

「バッテリ状態時間しきい値」の値を変更する場合、ドロップダウンメニューにより 値を選択します。

http://172.16.1.87:3052/sec	urity/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer	X
ファイル(E) 編集(E) 表示(W)	お気に入り(4) ツール① ヘルプ(4)	
🔾 💦 🔊 🖓 🛛 🗴 🗿	- 検索 🧙 お気に入り 🔮 メディア 🕢 🎯 👘 🤤	
アドレス(D) 🛃 http://172.16.1.87.30	52/security/login?referrer=/	💌 🔁 移動 リンク 🎽
PowerChute Business Edition	WWW.896.600	Smart-UPS 1000
172.16.1.87	パッテリ状態しさい値超過	?
Smart-UPS 1000	UPSがパッテリ状態になり、ユーザが設定した利用可能なパッテリ特徴よりも追い時間しか残っていません。	
▼ イ^ツト ロ2*	設定: パッテザ状態時間しさい値	
799+2 受信者 ロゲの設定	ハウデザ状態時間にさい値 「□ : □ ■ 分: 秒 このパット検発生きなしるい値を発見して下きい。	
¢יש¢י לים¢י	E-Mail	
保護されたシステム	E-Mail運信を有効にする 「 このハットに対した-Mai送信を有効にする場合に選択します。	
► 587*	f`ill90	
	 第歳しているすべてのユーサに満知 ドバイマのコーサに満知 ドバイマのコーサに満知 「マントマンコードに満知 「マントマンコードに満知 「マントマントでは満知 「マントマンコード」 「マントマントン・ 「マントマントン・ 「マントマントン・ 「マントン・ 「マントン・	z
ど アプレット LoginApplet started		🕑 信頼済みサイト

「バッテリ状態しきい値超過」イベントが発生したとき、シャットダウンを実行させるには「シャットダウン」チェックボックスにチェックします。

1 http://172.16.1.87:3052/sec	urity/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer	<u>_6</u> >
ファイル(E) 編集(E) 表示(型)	お気に入り色 ツール① ヘルプロ	Av
🔾 🖧 • 🙆 • 🖹 📓 🏠	🔍 検索 🧙 お気に入り 🔮 メディア 🐵 🍰 🔂	
アドレス(D) (き) http://172.16.1.87:3	52/security/login?referrer=/	💌 🔁 移動 リンク 3
PowerChute Business Edition	KING ALLON	Smart-UPS 1000
172.16.1.87	器り減し減加する □ ユーデジ動地を車時にご治食する場合に溢択します。	
Smart-UPS 1000	通知問題: 通知意識り返す問題を指定します。 ● ▼ : 0 ▼ 分: 秒	
✓ 45%	4F4C4C8E	
ログ* 795+12	17ンドファイルを実行する このハウトでロアトファイルの実行を有効にする場合に選択します。	
支信者 ログの設定	17ンドウァイル名の選択 実行する17ンドウァルを選択します。	×
> 7°-900°	1721-1776 実行所要時間 0 • : 0 • 分: 秒 トで変換 たつ2パロッ(4の運行に要するたよその所要時間を推済します。	
・ 保護されたシステム	(244(99))	
) _^¥7*	シャ ナトランシーシンスの開始 このイントマットサンシーシンスを開始 イトンドロジ	
	07を記録する このハヘントを記録する場合に選択します。	
	通用	
		1
アプレット LoginApplet started		

変更した後は画面下の『適用』ボタンを押してください。

注意:この『適用』ボタンを押さずに左側の他のメニューを選択すると、変更の内 容が反映されません。

「適用」ボタン押下後、以下のような画面が表示されますので、変更が反映されていることを確認してください。

(ル(E) 編集(E) 表示(y)	お気に入り(色) ツール(① ヘルプ(世)					
85 • 🔿 - 🖹 🖹 🟠	🔎 検索 🔩 お気に入り 🐠 メディア 🔗 🔝 🛼 🔽					
/2(0) abtts://17216187:	052/security/login?referrers/					- 📑 184h
	0.00	and a state of the			Smar	t-UPS 10
PowerChute	WWW. ARS. SOM	AND REAL PROPERTY OF A DESCRIPTION OF A		,	M 1	
Business Edition						
170.46.4.07	(10°4783.2)					-
1/2.16.1.8/	11.3033313					1
	重大	ロケを記録する	ユーザう通知	E-Mail	コマントワァイル	シャットダウン
Smart-UPS 1000	バッテリ状態時に適信切断	9				9
	UPS内部温度L含L的超超温	9				٩
イላንት	ローパッテリ状態	9				۵
u),	· 양송	ログを記録する	ユーザう通知	E-Mail	コマントワァイル	シャットダウン
アクション	<u>常務障害</u>	•				
受信者	UPS過負荷	•				9
nh'@ #==	<u>UPSセルフテスト失敗</u>	9				
17 07 at the	通信切断	9				
7~-909*	i <u>Biltal.</u>	٩				
	バッテリ状態しきい値超過	•				•
保護されたシステム	<u>UPS負荷しきい価級通</u>	9				
	利用できるランタイム時間が不十分	9				
N ()	バッテリ文換要	•				
	UPS内部運用整題	9				
	AVR Boost有効	٩				
	AVR Trim有効	9				
	バッテリ切断	•				
	指相	ログを記録する	ユーザ、通知	E-Mail	37747776	シャットダウン
	18/29/18/1E	•				
	UPS過貨荷状態解決	•				
	UPS負荷Lきい個内	•				
	シャットダウンキャンセル					

イベントアクションの設定として『E-mail通知』や『ユーザ通知』を選択した場合、 以下の設定が必要になります。設定に際しては『?』のオンラインヘルプを参照して ください。

[保護されたシステム]-[システムの設定]を選択し、「E-mailの設定」を設定してください。

<E-Mail 通知機能について >

- PowerChute Business Edition では SMTP 認証等のユーザ認証を行うメール 送信はサポートしていません。
- アカウント名に設定する情報は、E-Mail 通知された際の "From" に入る情報 です。ここに設定するアカウント名については、SMTP サーバにそのアカウ ントが実在している必要はありません。ただし、実在しないアカウントを設 定した場合、そのアドレスに対しての返信は行えませんのでご注意ください。

http://172.16.1.87:3052/seci	urity/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer	_6×
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) :	お気に入り(4) ツール(1) ヘルブ(4)	
○ 戻る * ○ * ▲ 2 60 × アドレス(0) (高) http://1721618730	· 機索 · デお気に入り · W メティバ · W · ジャ シ レヨ E2/secutiv/Dein?teteres/	▼ ■ 移動 リンク ≫
PowerChute Business Edition		Smart-UPS 1000
172.16.1.87	シウイランクタイフ・ スマート・・・ シンプ始またはスマートを運営にしてください。	Ī
Smart-UPS 1000	(デパイスの通信ボート	
▶ ₫^°>F ▶ ₸°~\$009°	遺信本~ト COMI ▼ UPS通信かっついが接続されているホートを選択して下さい。	
▼ 保護されたシステム シャットダウンの設定 システムの設定 すぐにナーパをシャットダウン パーシットン情報	E-Mailの登録 チー パ名 使用するSMTP/-5サーバ名を入力して下さし(例: mail2 yourdomain.com) 70かくA E-Mail2(時約の営业入F)してです(例: purchate@yourdomain.com)。	
PA67	148.74.56日 248.940.95前 UPS第行世紀の責任を名です。 システムの電気 システムの電気でいいた物理的公務所です。 通用	
アプレット LoginApplet started	·	位頼済みサイト

[イベント]-[受信者]を選択し、「E-mail 受信者」、「ブロードキャスト通知受信者」 を設定してください。

「ブロードキャスト通知受信者」に設定する情報については「?」を参照してください。



10 シャットダウンプロセスについて

PowerChute Business Edition を使用したシャットダウンプロセスは大きく分類すると以下の 3 通りです。

- スケジュールによるシャットダウンプロセス
- 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)
- 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「ランタイム重視」の 場合)

これらのシャットダウンプロセスの機能を使用するには、PowerChute Business Edition にて適切な値が設定されていなければなりません。システム環境により、 シャットダウンに要する時間やバックアップ時間 (UPS がバッテリ電源を供給できる 時間)が異なりますので、環境ごとに適切な値を設定しなければなりません。

もし適切な値が設定されていない場合、OSのシャットダウン処理が正しく終了する 前に UPS からの電源供給が停止し、その結果、システムに重大な障害が発生するこ とがあります。

スケジュールシャットダウン、および電源障害時のシャットダウン処理は「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した内容に従って行われますので、 「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」は必ず行ってください。

なお、以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。

10.1 シャットダウンシーケンスの設定

PowerChute Business Edition によりシステムのシャットダウン処理が開始された 場合の、シャットダウン処理の流れは以下のようになります。



 シャットダウンシーケンスの設定は、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを 表示後、[シャットダウン]-[シャットダウンシーケンス]を選択した以下の 画面から設定を行います。

以下の画面は、現在設定されているシャットダウンシーケンスの設定内容に なります。

- コマンドファイルは設定されていません(無効)
- OS シャットダウン待機時間は1分
- OS シャットダウン期間は 3 分

設定を変更するためには「シャットダウンシーケンスの設定」を選択します。

•		008
Win2003 全般 - キスト/ UPS指題 - 中スト/ UPS指題 - いうスラーなス - ハッラフメラーなス - ハッラフメラーなス - アンランコーション - アンランコーション - アンランコーション - アンランコーション - アンランコーシッション - アンランコーシッション - アンランコーシッション - アンランコーシッション - アンフィル	テーシの更新 コマットファイル OS シャットガウンン	シャットダ・ウンシーケンス 辿り間(分) 期間(分) 重効 300 シークンスの設定
□ 詳細項目の表示		[10月(2)] [閉じる(2)] [11/7*(日)]
準備完了。		

 「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウが表示されます。最初に OS シャットダウンを行う前に実行させるコマンドファイルの選択をします。特 にコマンドファイルを実行させる必要がない場合は「なし」を選択してくだ さい。

• >+++++++>>	ーリンスの設定	00×
	C	コマントウァイルの設定 遅択されたコマントウァイルはOSシャットタウンの前に 実行されます。
		コマントファイルのディルクトリ
13 16		コマントウァイルを選択してください。
10 B		なし 💿
12		なし
19		cmd_tile.exe
<u>^⊮7*⊞</u>		(牀へ(𝔄) (開じる(◯))

注意:コマンドファイルを実行する場合は、各エージェントのサーバごとに 以下の設定も必要です。

<Windows の場合>

- a. [設定]-[管理ツール]-[サービス]を表示し、「APC PBE Agent」サービスを 選択し、右クリックのメニューから「プロパティ」を選択。
- **b.** " ログオン " タブを選択して、「デスクトップとの対話をサービスに許可」 の チェックボックスをオンにします。
- C. 「適用」ボタンを押し、「OK」ボタンを押します。

<Linux の場合 >

コマンドファイルを作成する場合は root 権限にて行ってください。設定したコマンドファイルには必ず実行権限を与えておいてください。(例:chmod 700 cmd.sh)

コマンドファイルは「コマンドファイルのディレクトリ」をクリックして表 示されるメッセージウィンドウのフォルダに格納されているものが表示され ます。

•	00×
したしていたいのファイルは1 "WIN2003"、"C#PROGRA"1#APC#POWERC"1#agent#cmdfiles#"デ	ィレクトリにあります。
<u>O</u> K	

ここでは例として「cmd_file.exe」をコマンドファイルとして設定します。コマンドファイルを選択したら「次へ」ボタンを押します。

 >+++++*******************************	
	コマントウァイルの設定 選択されたコマントウァイルはOSシャットがウンの前に 実行されます。 コマントウァイルのディルンド
4 4	コマントウァイルを選択してください
<u>^⊮7°(H)</u>	(次へ似)(開じるの)

3. 次は「コマンドファイル」および「OS シャットダウン」に関する待機時間、および期間の設定を行います。なお、以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。また、待機時間、期間の説明は「ヘルプ」ボタンを押して表示されるシャットダウンシーケンスの設定の「待機時間と期間の指定方法」を参照してください。

前のコマンドファイル選択画面において、コマンドファイルを設定していた 場合、上記のような画面表示になります。コマンドファイルの選択画面にて 「なし」を選択していた場合、上記画面において「コマンドファイル」が表示 されません。

「待機時間」、「期間」は表示されているバーグラフの、各「バー」をマウスの ドラッグ操作等により設定します。設定した内容は下の「待機時間」、「期間」 の欄に表示されます。 また、(a) にて時間設定をする対象 (OS または、コマンドファイル)を選択し、 (b) にて「待機時間」、(c) にて「期間」をそれぞれ「▲」や「▼」ボタンを押 すことで設定することもできます。

重要 : **OS** シャットダウンの「期間」に設定する値について この値は、**OS** シャットダウン開始後、**UPS** 装置からの電源供給が停止する までの時間についての設定項目になります。この値を設定する前に実環境の サーバを使用して、**OS** がシャットダウンに要する時間を何回か測定し、その 結果を十分に超える値を設定してください。

この設定値が短い場合、シャットダウン途中に UPS 装置からの電源供給が停止され、システムに重大な障害が発生する可能性があります。

注意: **OS** シャットダウン待機時間の値は「コマンドファイル待機時間」、「コマンドファイル期間」に設定した時間も加えられます。

4. 設定を終えたら「次へ」ボタンを押してください。



5. 「完了」ボタンを押して「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウを閉 じます。



6. 設定した内容が正しく反映されているかを確認してください。

Win2003			Δ	PC
 全般 ホスト/ UPS情報 管理者情報 UPSの旧指報 UPSステータス ハッテリステータス マッテリステータス Pシャットタウン 	左─如更新		<u> <u></u> <u></u></u>	-ケン
→ シャットオワントーフンス - ステンシェーンシャットオウン - シャットオウンタイプ ④ ログファイル	אדלאלדע סs <u>לאב</u> לאלדע	待機時間 (分) 0:00 3:00 トッウンシークンスの設定	期間 (分) 200 6:00	
 詳細項目の表示 			- (開tる©) 🔨	₽2°(<u>P</u>

10.2 シャットダウンタイプの設定 (Windows サーバのみ)

PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバが Windows サーバの場合、シャットダウンタイプの選択ができます。シャットダウン タイプを変更することで PowerChute Business Edition により行われるシャットダ ウン動作を、シャットダウン、シャットダウンと電源オフ、休止する のいずれかに 設定することができます。各シャットダウンタイプについては、以下を参照してくだ さい。

- 「シャットダウン」を選択した場合
- 「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合
- 「休止する」を選択した場合

シャットダウンタイプを設定するには、PowerChute Business Edition コンソールか ら対象の PowerChute Business Edition エージェントを選択し、「デバイスのプロパ ティ」ウィンドウを表示したあと、[シャットダウン]-[シャットダウンタイプ]を選 択してください。

 7'ハ'イス0フ'ロハ'ティ 	
	<u>アーシの更新 アーシの更新 シャットダウンタイプ* OSのシャッドガウンタイプの選択 ・ シャッドガウン シャットダウンを取用 ・ 休止する</u>
 詳細項目の表示 準備売了。 	(開けるの)(開けるの)(MP7の)

WebUIから設定する場合は [保護されたシステム]-[シャットダウンの設定]を選択し、「OS シャットダウンタイプ」にて設定します。

「シャットダウン」を選択した場合

PowerChute Business Edition エージェントのデフォルト設定です。PowerChute Business Edition により OS シャットダウンが行われた後、サーバはすぐに電源オフ されません (*)。サーバの電源は、OS のシャットダウン処理が開始されてから「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」の OS シャットダウン期間にて設定した時間が経 過した後に UPS 装置からの電源供給が停止されることで、電源オフされます。

電源障害によるサーバシャットダウン後、電源回復によるサーバの自動起動、およ びスケジュール設定をすることによるサーバの自動運転を行う場合は、このシャッ トダウンタイプにて運用することをお奨めいたします。

※ Windows XP Professional SP1a を適用済み、および Windows Server 2003 の環 境では、「シャットダウン」を選択した場合でも OS シャットダウン後、直ちにサー バの電源がオフされます。

「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合

PowerChute Business Edition により OS シャットダウンが行われた後、直ちにサー バの電源がオフされる設定です。このシャットダウンタイプを選択している場合、 サーバ装置の BIOS にて設定する「AC-LINK」の設定が「Power ON」であるか、そ れ以外になっているかにより、UPS から電源供給が再開した後の動作が異なります。

<「Power ON」に設定している場合 >

UPS 装置からの電源供給が再開されると、サーバも自動起動されます。

< [Power ON] 以外に設定している場合 >

UPS 装置からの電源供給が再開された後も、サーバは自動起動されない場合があります。サーバが起動していなかった場合、起動するためにはサーバの電源スイッチを手動オンしていただく必要があります。

重要:このシャットダウンタイプを選択し、かつ「AC-LINK」の設定を「Power ON」以外に設定している場合、電源障害によるサーバシャットダウン後の電源回 復によるサーバの自動起動や、スケジュール運転によるサーバの自動運転が行えま せんので、本事項を十分にご理解の上でご使用ください。

「休止する」を選択した場合

このシャットダウンタイプを選択することで、PowerChute Business Edition により シャットダウン処理が行われた場合、サーバを休止状態にすることができます。ただ し「休止する」を選択するためには、ご使用の環境において休止状態が使用可能であ ることが条件となります。使用可能かどうかを判断するためには[コントロールパネ ル][電源オプション]を選択してください。「休止状態」タブが表示されており、そ のタブを選択して「休止状態を有効にする」のチェックボックスがオンになっていれ ば、休止状態が使用できます。

ただし「休止状態」を使用する場合、ご使用のハードウェア、**OS**、アプリケーションにおいて「休止状態」を使用することにより問題が発生しないことを十分に確認してください。

重要 :シャットダウンタイプを「休止する」にして運用する場合、以下の制限事 項がありますのでご注意ください。

● Windows 2000 環境において、休止状態からのウエイク後キー・マウスイン プットなどを行わずに放置しアイドル状態が5分続くと、再び休止状態に入 りそれ以降 PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しま せん。(詳細はマイクロソフト社のサポート技術情報 KB282208 を参照して ください)

上記現象によりサーバが再び休止状態になった場合、サーバは休止状態から 自動復旧されず、手動にて休止状態から復旧させる必要があります。停電ま たはスケジュールによるサーバの自動運用を行う場合は、「休止する」を使用 しないことをお奨めします。

Windows XP Professional 環境において、休止状態からのウエイク後キー・マウスインプットなどを行わずに放置しアイドル状態が5分続くと、再び休止状態に入りそれ以降 PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しません。(詳細はマイクロソフト社のサポート技術情報 KB318355を参照してください)

上記現象によりサーバが再び休止状態になった場合、サーバは休止状態から 自動復旧されず、手動にて休止状態から復旧させる必要があります。停電ま たはスケジュールによるサーバの自動運用を行う場合は、「休止する」を使用 しないことをお奨めします。

10.3 スケジュールによるシャットダウンプロセス

ここではスケジュールによるシャットダウンが開始された場合の、シャットダウンの 流れを説明します。シャットダウンのスケジュール設定方法については、54 ページ の[10.2 シャットダウンタイプの設定 (Windows サーバのみ)]にて説明しています。



- **a.** スケジュール設定時刻の 10 分前に「<日時 > に設定されている管理上の シャットダウンが開始されました。」とメッセージ通知を行う
- **b.** コマンドファイルの待機
- C. コマンドファイルの実行開始
- d. コマンドファイルが終了し、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- **e.** OS のシャットダウンが開始される
- f. UPS からの電源供給が停止する

設定項目

● シャットダウン待機時間

PowerChute Business Edition がスケジュールによるシャットダウンプロセスを開始するまでの待機時間です。10分で固定されています。

● コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間

「シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。まだシャットダウンシーケンスの設定を行っていない 場合は必ず 50 ページの「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」を参照し て設定を行ってください。

10.4 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が 「安全性を重視」の場合)



a. 停電 (電源障害)発生。以降 UPS はバッテリによる電源供給を行う

- b. バッテリ状態時間しきい値を超過したので、シャットダウンプロセスが開始 される
- C. コマンドファイルが開始される
- **d.** コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで 待機する
- **e.** OS のシャットダウンが開始される
- **f.** UPS からの電源供給停止する

※ a.~f. の間に復電した場合、サーバのシャットダウンはキャンセルされます。

注意:a.~f. の間に UPS がローバッテリ状態またはランタイム残量がローランタイムしきい値以下になった場合のシャットダウンプロセスは、60 ページの「10.5 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「ランタイム重視」の場合)」と同様になります。

重要:すべての時間の合計 ([バッテリ状態時間しきい値]+[OS シャットダウン待 機時間] +[OS シャットダウン期間]) が UPS の残りバックアップ時間 (UPS がバッ テリ電源を供給できる時間)を超えないように設定してください。バックアップ時 間を超える値を設定した場合、OS のシャットダウン完了までバッテリ電源による 供給ができません。

重要:コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間は、 「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。まだシャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は 必ず 50 ページの「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」を参照して設定を行っ てください。

設定項目

● バッテリ状態時間しきい値

停電(電源障害)が発生してから、OSのシャットダウンが開始されるまでの時間を設定します。

コンソールからは、プロパティを開き[シャットダウン]-[電源障害]で、[UPS のバッテリ状態が次の時間経過後]タブを選択して時間を設定します。[電源 障害]ツリーはプロパティ画面左下の「詳細項目の表示」にチェックを入れる と表示されます。(下図参照)

Win2003			ΔΡΟ
 ⇒ 余校 → ネ秋/ UPS 情報 → 管理者情報 → UPS の10 情報 → UPS の5- ゆス → パッテリステータス → ペッテリステータス → マットットマットック → マットットマットック → マットットマットック → マットットマットック → マットットマットット → マットットマット → マット → マット → マット → ロトマット → 通信 	7—200更新	 電源検査時中のンャナタウン開始: ・ BDA ・ UPSのパップリ状態が大の時間経過後、1 ・ プラ ・ ロック ・	www.spie.eou
✓ 詳細項目の表示		「知用の」(閉じる	©] (~117°H)

WebUI からは [イベント]-[アクション] -[バッテリ状態しきい値超過]を選択し、「バッテリ状態しきい値」を設定します。

10.5 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が 「ランタイム重視」の場合)



a. 停電 (電源障害)発生。以降 UPS はバッテリによる電源供給を行う

- b. バッテリからの電源供給が可能な時間が、[ローバッテリ信号時間]の設定時間または[ローランタイムしきい値]まで低下したためにシャットダウンプロセス開始が開始される
- C. コマンドファイルが開始される
- **d.** コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで 待機する
- e. OS のシャットダウンが開始される
- **f.** UPS からの電源供給停止する

注意:[ローバッテリ信号時間]の考え方については、※ 1(76 ページ)を参照願います。

重要:コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間は、 「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。まだシャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は 必ず 50 ページの「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」を参照して設定を行っ てください。 設定項目

● ローバッテリ信号時間

WebUI からのみ設定することができます。[保護されたシステム]-[シャット ダウンの設定]を選択して[設定]を押します。表示される設定画面で[ロー バッテリ信号時間]を設定します。(下図参照)



ローランタイムしきい値

コンソールでは [OS のシャットダウンに必要な時間]の設定値と[コマンドファイル実行所要時間]の設定値から自動で設定されます。ただし、最低設定値は5分になります。

例えば

OS のシャットダウンに必要な時間:180秒

コマンドファイル実行所要時間:5分

に設定した場合、ローランタイムしきい値は8分に設定されます。

WebUI からは任意の値を設定することができます。[保護されたシステム]-[シャットダウンの設定]を選択して[設定]を押します。表示される設定画面 で[ローランタイムしきい値]を設定します。(下図参照)



※1参考[ローバッテリ信号時間]について

例えば UPS バッテリ能力が弱っている場合、UPS バッテリの電源供給可能時 間が、58 ページの「10.4 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護 方針が「安全性を重視」の場合)」で設定した[バッテリ状態時間しきい値]+[OS シャットダウン待機時間]+[OS シャットダウン期間]の合計時間より 少なくなる場合があります。このような状態の UPS がシャットダウンプロセ スを実施した場合、正常にシャットダウンが完了する前に、UPS バッテリの 電源供給が停止してしまいます。それを防止するために、PowerChute Business Edition は UPS バッテリの電源供給可能時間が、[ローバッテリ信号 時間]として設定されている時間以下になった時に OSのシャットダウンを開 始します。

[ローバッテリ信号時間]は、[OS シャットダウン期間]より大きい時間を設定する必要があります。

現時点でのバックアップ時間を表示するには、コンソールからはプロパティを開き、[全般]-[バッテリステータス]を選択し、[ランタイム残量]によって確認することができます。(下図参照)

• 7°//70711/74		
Win2003 ・ 未水/ UPS情報 ・ 世球者情報 ・ UPSのD1時報 ・ UPSのD1時報 ・ UPSのD1時報 ・ UPSのD1 ・ UPSのD1	<u> 5-120)更新</u>	<u>かっテリステータス</u> ・ハッテリステータス ・ハッテリステータス ・ハッテリステータス: 正光 ・ハッテリステータス: 正光 ・ハッテリステータス: 正治 ・ハッテリステータス: 正治 ・ハッテリステータス: 正治 ・ハッテリステータス: 正治 ・ハッテリステータス: 二日の ・ハッテリステータス: 二日の ・ハッテリステータン: 二日の ・ハッテリス・ ・ハッー ・ハッー ・ハッー ・ハッー ・ハー ・ハー ・ハー ・ハー ・ハー ・ハー ・ハー ・ハ
詳細項目の表示		
準備完了。		

WebUI では [Smart-UPS 1000]-[システムステータス]を選択し「ランタイム 残量」を確認します。(使用する UPS タイプが Smart-UPS 1000 の場合です。)

11 スケジュールシャットダウンの設定

PowerChute Business Edition ではサーバのシャットダウンに日時および再起動日時を設定することによるスケジュール運転ができます。

注意:スケジュール運転は『PowerChute Business Edition コンソール』でのみ 設定することができます。WebUI ではスケジュール運転を設定することができま せん。

以下、スケジュール運転の設定方法を説明します。

 PowerChute Business Edition コンソールに表示されているサーバで、スケ ジュールを設定するサーバを選択して、「デバイスのプロパティ」ウィンドウ を表示してください。

ウィンドウが表示されたら、[シャットダウン]-[スケジュールシャットダウン]を選択してください。

すると以下のような画面が表示されます。「新規エントリ」ボタンを押してく ださい。

• 7°2470711277				
Win2003				ΔΡC
□-全般 trk/UPS性報	-i hower		スケジュー	ルシャットダウン
管理者情報	新規エントリフアティ 削除			
	エージェントの	D概算日付/時刻	£ 2003/11/05 19:17	
·····································	(次回のシャットタウンの日時	〔期間	〔頻』	t (j
シャットタウンシーケンス				
⊡ ロク`ファイル				
□ 詳細項目の表示			開しる(C) (\\\\7*(H)
準備完了。			(mou	

「新規スケジュールシャットダウン」ウィンドウが表示されますのでここで シャットダウンをする日時を設定してください。
<「再起動の日付/時間」の「時間」の設定について>

再起動の時間は、「次回のシャットダウンの日時」に設定した日時から「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」の『OS シャットダウン待機時間』+『OS シャットダウン期間』+6分単位で設定します。

•	M#277'1-676719'17
	次回のシャットタウンの日時 2003/11/05 時間 1200 美
	再起動の日付/時間 2003/11/05 回時間 19:29:00 🚔
	 ● 一度のみ ○ 毎日繰り返す ○ 毎週繰り返す
	OK(()) (++>/±1+())

スケジュールの日時を設定後に「OK」ボタンを押すと、再び「デバイスのプロパティ」ウィンドウに戻ります。このとき先に登録したスケジュールの情報が画面内に表示されますので、登録内容に誤りがないかを確認してください。スケジュールを追加する場合は同様に「新規エントリ」ボタンにて追加を行ってください。

注意:スケジュールシャットダウンの「期間」の欄に表示される時間は「10.1 シャットダウンシーケンスの設定」において設定する『コマンドファイルの 待機時間』、『コマンドファイルの期間』、『OS シャットダウン待機時間』、『OS シャットダウン期間』の値と連動します。それらの設定値を変更すると、そ の値に応じて下記の「期間」に表示される時間が増減します。

• 7 ' <u>л'</u> 1707'11 / '71				0
Win2003 □- 全般 □- ホスト/ UPS情報 □- 管理者情報			スケシュールシャットダウン	,
 UPSのID情報 UPSステータス パッテリステータス ワ・シャットタウン シャットタウンシークンス スケジュールシャットタウン 	(次回のシャットタウンの日時 2003/11/05 21:00:00	期間 10時間,58分	(頻度) 毎日	j
>+y+\$"ウン\$イプ ⊪-ログファイル				
□ 詳編項目の表示	<](A) (++>telk@) (^1k7°(H)	>
準備完了。				

注意:すでに登録されているスケジュールと、新たに追加(あるいは編集)したスケジュールの登録内容に重複している部分がある場合、以下のように「重複する日時」の欄に登録したスケジュールに関する日時が表示されます。この「重複する日時」に表示されている行のスケジュールは実行されません。



重複した日時のスケジュール登録を行った場合の動作については、「ヘルプ」 ボタンを押して表示されるヘルプの「重複したスケジュールシャットダウン」 に記載された内容をご確認ください。

3. 必要なスケジュールの登録がすべて終わりましたら、最後に「適用」ボタン を押してください。「適用」ボタンを押すと設定したスケジュールが対象サー バに記録されます。これでスケジュール設定は完了です。

•			. O O X
Win2003			www.spc.com
 □ 金額 □ 金額 □ 管理者情報 □ UPSのDU情報 □ UPSのDU情報 □ UPS7→9ス □ シャットがワン □ シャット □	<u>ネーカの更新</u> 新規正ンドリフロカイィ 利単線 エージェンドリフロカイィ (次国のシャドゲジンの日時 2003/11/05 21:00:00	9.概算日付/時刻:20 (期間 10時間,58分	スケジ [*] ュールシャットダ [*] ウン 03/11/05 1920 <u>) 領度</u> 毎日
	<		>
□ 詳細項目の表示		通用	(A) [++) zll (C) [^ll7°(H)
準備完了。			

注意: PowerChute Business Edition コンソールにて何らかの値の変更を 行った場合、「適用」ボタンが有効になります。この状態で「キャンセル」等 で終了しようとすると、以下のようなウィンドウが表示されます。

この場合、「はい」を選択すると変更内容が対象サーバへ適用されませんので ご注意ください。



12 UPS との通信設定について

PowerChute Business Edition コンソール、または WebUI を使用することでシグナ リングタイプの変更、および COM ポートの変更ができます。

•			
Win2003 全般 - 客球/ UPS情報 - 管理者情報 - UPS3DD情報 - UPS3DD情報 - UPS3P-93 - 管理の方法-9 Biblin Biblin Biblin Biblin Biblin - OPS00261 Biblin Biblin - SIMP通信	7—20 更新 	〕通信ホ ⁺ -トの設定 リングステータス・ス <mark>マートングブリング</mark> プジングタイン・スマート ● トクステータス・ ホ ⁻ ート・○OM1 ●	
 ✓ 詳細項目の表示 準備完了。 			5© [^//7*(H)]

PowerChute Business Edition コンソールから変更を行う場合は、デバイスのプロパティを表示後、「詳細項目の表示」のチェックボックスをオンにし、[通信]-[UPSの通信]を選択することで表示される上記画面にて変更を行います。

🛃 http://172.16.1.87:3052/secu	rity/login?referrer=/ - Microsoft Internet Explorer	
ファイル(E) 編集(E) 表示(y) は	お気に入り(の) ツール(①) ヘルプ(日)	
😋 戻 • 🕤 · 💽 😰 🐔 🔎) 検索 👷 お気に入り 🔮 メディア 🤣 🍰 😓	
アドレス(D) 🙋 http://172.16.1.87:30	52/security/login?referrer=/	💌 🋃 移動 リンク 🕴
PowerChute Business Edition	WWW.ape.com	Smart-UPS 1000 🎽 i
172.16.1.87	システムの 読定	?
Smart-UPS 1000	2月1日の947*	
▶ イヘѷト ▶ テ°-\$ab° 	シック加またはスマートを選択してください。	
★ 保護されたシステム シャットサウンの設定 システムの設定 すぐにサーハをシャットサウン	通信本→ 「COMI ▼ UPS通信かったが接続されているホートを選択して下さい。	
^ページョン情報 	サーパ名 使用するSMTPパールサーバ名を入力して下さい(例: mail2.yourdom	ain.com)
アブレット LoginApplet started	7約21-名 E-Mail送信時の差出人アドルスです(例: pwrchute@yourdomain.	com)。

WebUIの場合は [保護されたシステム]-[システムの設定]にて表示される上記画面より変更を行います。

12.1 通信ポートの変更

PowerChute Business Edition コンソールからのシリアルポートの変更手順を説明 します。

1. 対象サーバのデバイスのプロパティを表示させ、[通信]-[UPSの通信]を表示させてください。現在設定されているシリアルポートが表示されます。

• 7°24707'1254			- O ×
Win2003 ・ 金線 ・ 本木/ UPS情報 ・ 管理考情報 ・ UPSのD情報 ・ UPSのD情報 ・ UPSパランラ ・ ジャウドグン ・ ジャウドグン ・ ジャウドグン ・ ジャウドグン ・ ロウラフィル ・ ロクラフィル ・ ロクラク・(M) ・ 通信 ・ SNMP通信	<u> 疗—为の更新</u>	通信ホートの設定 シグサリングステージス シグサリングステージス スマート・のフェーシス ホートのフェーシス ホート・のフェーシス ホート・ COM1 の	APC PSO通信
 ✓ 詳細項目の表示 準備完了。 		(190日C) (開にるC)) <u>^⊮7°⊞</u>

 ポートのドロップダウンメニューより、変更するシリアルポートを選択して ください。

• 7 [*] / [*] /707 [*] 1/ [*] 71		- • ×
Win2003 全般 本丸/ UPS情報 管理者情報 - UPSのDI情報 - UPSのDI情報 - のうデリステータス - のうデリステータス - のうデリステータス - ジャウパクジ B 25比 D 07ヶイル D 通信 - UPSの通信 - SNMP通信	<u>3</u> 価信本 1の話定 ジウナリンウケスータン ジウナリンウケス・タン スマート 本 トのステータン 本 ト・COM2 の 2012	PSの通信
✓ 詳細項目の表示 準備完了。		© (~11/7°®)

3.「適用」ボタンを押す前に、対象サーバサーバに接続されているシリアルケーブルを変更した通信ポートにつなぎかえてください。つなぎかえましたら、「適用」ボタンを押してください。(つなぎかえることで、「通信切断」のイベントが検出されます。)

• 7 [*] / [*] /707 [*] 1/ [*] 71			
Win2003 全般 キスメ/UPS債相 管理者情報 -UPSのDI情報 -UPSのJUF -UPSのJUF -UPSのJUF -UPSのJUF -UPSDのJUF -UPSD -SNMPJE	፻──20〕更新	通信本 ⁺ -トの設定 タウナリングステータス: スイートのプリング シウナリングダイハ ¹ スイート @ 本 ⁻ トのステータス: 通信のK ホ ⁻ ート: COM2 @	
● 詳細項目の表示 準備完了。			

4. 正しく変更されたかを確認するために、以下を行ってください。

なお、対象サーバが使用しているシグナリングタイプにより、確認方法が異なりますのでご注意ください。

< スマートシグナリングで使用している場合 >

「適用」ボタン押下後、しばらく待ち、デバイスのプロパティウィンドウの[ログファイル]-[イベントログ]を参照してください。

最新のログに「通信確立」が出力されている場合は、UPS との通信が確立しています。

最新のログが「通信切断」のままの場合は、UPS との通信が確立していません。シリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている 「通信ポート」に正しく接続されているか、および「UPS 装置」と正しく接続 されているかを確認してください。サーバ装置の仕様により使用可能なシリ アルポートが限られていることもありますので、サーバ装置に添付のマニュ アル等で確認してください。

< シンプルシグナリングで使用している場合 >

シンプルシグナリングは使用できません。

13 コンソールと WebUI における機能差分

機能		Console	WEB	備考
	「管理者情報」の設定	0		WebUI ではメモの登録が不可
	「UPS の ID 情報」の設定	0	\bigtriangleup	WebUI ではデバイス 1~4の設定が不可
	「バッテリ交換日」の設定	0	\bigtriangleup	WebUI では月まで登録が可能(日は不可)
	「バッテリ切替値(上限)」の設定	0	0	
	「バッテリ切替値(下限)」の設定	0	0	
	「感度」の設定	0	0	
	「警告音」の設定	0	0	
	「コマンドファイル」の設定	0	0	
	「コマンドファイル待機時間」の 設定	0	×	コマンドファイル実行を開始するまでの待機時 間
	「コマンドファイル期間」の設定	0	0	コマンドファイルの実行に要する時間
	「OS シャットダウン待機時間」の設定	0	×	OS シャットダウンを開始するまでの待機時間
	「OS シャットダウン期間」の設定	0	0	OS のシャットダウンが開始されてから UPS が OFF になるまでの時間の設定
	「シャットダウンタイプ」の設定	0	0	Windows サーバのみ設定可、Linux は不可
	「ローバッテリ信号時間」の設定	×	0	
	「ローランタイムしきい値」の設定		0	Console では「OS シャットダウン待機時間」 +「OS シャットダウン期間」に自動で設定さ れる。WebUI では値を直接設定可能。
協作	「スケジュールシャットダウン」の設 定	0	×	
17KTF	「電源障害時のシャットダウン開始ま での待機時間」の設定	0	0	WebUI では [イベント] → [アクション] の 「バッテリ状態しきい値超過」イベントで設定 可能
	「電源回復時の UPS 再起動の有無」の 設定	0	0	
	「UPS 再起動待機(容量)」の設定	0	0	
	「UPS 再起動待機(時間)」の設定	×	0	
	「セルフテスト」の実行	0	0	
	「セルフテスト診断スケジュール」の 設定	×	0	設定可能なパラメータは「起動時」、「7 日ご と」、「14 日ごと」、「しない」
	「UPS ランタイム較正」の実行	0	0	
	「UPS ランタイム較正」の停止	0	0	
	「データログ」のクリア	0	0	
	「データログの採取の有無」の設定	0	0	
	「データログ記録間隔」の設定	0	0	
	「データログ表示項目」の設定	×	0	
	「イベントログ」のクリア	0	0	
	「イベントログの採取の有無」の設定	0	0	WebUIではイベントごとに設定が可能
	「イベントログサイズ」の変更	0	0	Console ではイベントの数、WEB では有効期 間を設定
	「イベントアクション」の設定	×	0	

機能		Console	WEB	備考
	「Agent からのイベントの E-Mail 通 知」の設定	×	0	
	「Server からのイベントの E-Mail 通 知」の設定	0	×	
	「イベントのブロードキャスト通知先」 の設定(Agent)	×	0	
	「イベントのブロードキャスト通知先」 の設定(Server)	0	×	
	「シグナリングタイプ」の変更	0	0	
	「UPS 通信ポート」の変更	0	0	
	「SNMP 通信の有効 / 無効」の設定	0	×	Windows からのみ可能、Linux では使用不可
	「手動でのサーバのシャットダウン」 の実行	0	0	
	同「シャットダウン開始までの時 間」の設定	0	0	
	「手動でのサーバのシャットダウン (再起動あり)」の実行	0	0	
	同「再起動までの待機時間」の設定	0	0	
	「サーバの IP アドレス」の表示	0	0	
	「エージェントのバージョン」の表示	0	0	
	「サーバの OS」の表示	0	0	
	「UPS モデル」の表示	0	0	
	「UPS のシリアル番号」の表示	0	0	
操作	「UPS の製造日」の表示	0	0	
	「ファームウェアのリビジョン」の 表示	0	0	
	「バッテリ交換日表示」の表示	0	0	
	「UPS ステータス」の表示	0	0	
	「UPS 内部温度」の表示	0	0	
	「UPS 出力電圧」の表示	0	0	
	「UPS 入力電圧」の表示	0	0	
	「UPS 出力周波数」の表示	0	0	
	「UPS 負荷」の表示	0	0	
	「バッテリのステータス」の表示	0	0	
	「バッテリ電圧」の表示	0	0	
	「ランタイム残量」の表示	0	0	
	「バッテリ容量」の表示	0	0	
	「シグナリングタイプ」の表示	0	0	
	「ポートのステータス」の表示	0	×	
	「イベントログ」の表示	0	0	
	「データログ」の表示	0	0	
	「電源イベント」のグラフ表示	0	×	
	「入力電圧」のグラフ表示	0	×	
	「リスクアセスメント」の表示	0	×	

14 障害発生時の資料採取方法

ここでは障害が発生した場合の資料採取方法を説明します。以下に記載されている Windows 環境および Linux 環境での障害資料を採取し、82 ページの「14.3 障害調 査依頼票」に記載されている情報を調べてください。

14.1 Windows 環境

以下に採取が必要な障害資料を記載します。

PowerChute Business Edition のログ

PowerChute Business Edition エージェント

- エクスプローラ等で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているフォルダを開く。(デフォルト:\Program Files\APC\PowerChute Business Edition\agent)
- 2. その中にある下記ファイルおよびフォルダを FD 等の媒体に保存する。

[エージェントインストールフォルダ直下]

- DataLog
- EventLog
- m11.cfg (m11の1は数字の1です。ご注意ください。)
- m11.bak (m11の1は数字の1です。ご注意ください。)
- debug.txt
- data.dat
- pcbeproxy.txt
- [エージェントインストールフォルダ下の「cmdfiles」フォルダ]
 - 「cmdfiles」フォルダおよびその配下のすべてのファイルを保存する。
- [エージェントインストールフォルダ下の「utils」フォルダ]
 - pcbeproxy.ini
 - UPSSleep.log (UPSSleep.exe を実行した場合、デフォルトではここに 作成されます)
 - EventLog.txt (存在する場合のみ採取してください)
 - Export.log (存在する場合のみ採取してください)

PowerChute Business Edition サーバ

- エクスプローラ等で PowerChute Business Edition サーバ がインストールされているフォルダを開く。(デフォルト:\Program Files\APC\PowerChute Business Edition\server)
- 2. その中にある下記ファイルを FD 等の媒体に保存する。
 - m11.cfg (m11の1は数字の1です。ご注意ください。)
 - m11.bak (m11の1は数字の1です。ご注意ください。)

- data.dat
- debug.txt

PowerChute Business Edition コンソール

- エクスプローラ等で PowerChute Business Edition コンソール がインストー ルされているフォルダを開く。 (デフォルト:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥console)
- 2. その中にある下記ファイルを FD 等の媒体に保存する。
 - console.ini

OS のイベントログの採取

イベントログは、システムログとアプリケーションログの両方を採取してください。 ※イベントログのサイズは設定によって異なりますが、各 FD1 枚ぐらいが目安です。

- 1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[管理ツール]のイベントビュー アを起動します。
- ツリーでアプリケーションログを表示させ、【操作】を指定し、【ログファイルの名前を付けて保存】を選択します。
- ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディット ボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してくだ さい。ログがセーブされます。
- 4. セーブしたファイルを FD 等の媒体に採取してください。
- 5. 同様にして、システム(ツリーでシステムログを指定)のイベントログも採取してください。

システム情報ファイル

システム情報ファイルを FD 等の媒体に保存してください。

システム情報ファイルのサイズは環境によって異なりますが、FD1枚ぐらいが目安です。

Windows Server 2003/Windows XPの場合

<Windows Server 2003 の場合>

 スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を起動し、「名前」の入力 欄に「msinfo32.exe」と入力してください。「システム情報」が起動します。

<Windows XPの場合 >

- スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツー ル]の「システム情報」を起動します。
- 2. メニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択します。
- 3. 名前をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力して「保存」 ボタンをクリックしてください。システム情報ファイルがセーブされます。
- 4. セーブしたファイルを FD 等の媒体に採取してください。

Windows 2000の場合

- スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を起動し、その中の「管 理ツール」→「コンピュータの管理」を起動します。
- 2. ツリーでシステム情報を選択します。
- 3. メニューから[操作]→[システム情報ファイルとして保存]を選択します。
- **4.** 名前をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力して「保存」 ボタンを選択してください。システム情報ファイルがセーブされます。
- 5. セーブしたファイルを FD 等の媒体に採取してください。

Collect ログと IPMI ログ

ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログおよび IPMI ログを採取してください。採取方法を以下に示します。

採取作業はローカルサーバ上で行ってください。

Collect ログの採取

Collect ログは、ESMPRO/ServerAgent の「collect.exe」で採取します。collect.exe は ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ (デフォルトは ¥ESM)の ¥tool フォ ルダ配下にあります。

collect.exe により採取される情報は、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ 下の「¥tool ¥log 」フォルダに保存されますので、そのフォルダ内のファイルおよ びフォルダを送付してください。

IPMI ログの採取

IPMI ログは、ESMPRO/ServerAgent もしくは ESMPRO/ServerManager の「ESRAS ユーティリティ」で採取します。

ESRAS ユーティリティを起動し、ツリー内のローカルサーバをクリックしてくださ い。すると"ローカルコンピュータの情報を取得しますか?"と表示されますので、 「OK」をクリックしてください。サーバの情報取得処理が終了した後に、ツリーの [Intelligent Platform Management Interface(IPMI) 情報」にマウスカーソルをあわ せ、右クリックで表示されるメニューから「現在の IPMI 情報をバックアップする」 を選択し、IPMI 情報をバックアップしてください。

※このとき、指定するファイル名は「ipmi.dat」にしてください。

確認事項

(1) BIOS の設定

サーバ装置における BIOS の設定により、UPS からの電力供給が開始されても、サーバが起動しない場合があります。BIOS の設定を確認してください。

== UPS を使って自動運転を行う場合の注意 ==

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK(AC 連動モード)を「Power ON」にしていただく必要があります。BIOS の設定方法

については、サーバにより異なります。サーバ本体添付のマニュアルを参照してく ださい。

注意:AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

(2) WebUI を使用するための準備

採取していただく資料の中には WebUI のみでしか確認できない情報があります。41 ページの「9 WebUI での操作」を参照して、WebUI を使用する準備ができていることを確認してください。

(3) PowerChute Business Edition 各コンポーネントのバージョン情報の確 認

PowerChute Business Edition コンソールを使用して情報の確認をします。

PowerChute Business Edition コンソールを起動し、メインメニューの「ヘルプ」→「バージョン情報」を起動してください。以下の赤丸で囲まれている情報を「障害調査依頼票」の該当個所にそれぞれ記録してください。



次に、障害が発生したサーバのエージェントの情報を確認します。PowerChute Business Edition コンソールで対象サーバを選択し、右クリックして「プロパティ」 を選択して「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示させてください。「全般」→ 「ホスト/UPS 情報」を選択して、以下の矢印で示された情報を「障害調査依頼票」に 記録してください。

•		
Win2003	ΔΡΟ	
 ● 金岐 → 名太/ UPS情報 ● 管理者情報 → UPSのD情報 → UPSカワ情報 → UPSカワトカス ● シャットウウン ● ロウファイル 	ホスト情報 ホスト情報 IPアドレス: 172161.87 I-ウェントのハーンパン: 700.419 OS Windows 2003 5.2 UPSt特報 UPSt特報 UPSt特報: 2003/06/09 ジリアル番号: ASS024320085 製造目: 2003/06/09 アナームウェアのリビットン: 6003.A 最終パッグガジ式AEI: 2003/06/09	PowerChute Business Edition エージェントの バージョン情報を 障害調査依頼票の 該当箇所に記入
 詳細項目の表示 準備完了。 	(開いるの) (北7)()	

< 参考 >: WebUI からも PowerChute Business Edition エージェントのバージョン 情報を確認することはできますが、PowerChute Business Edition サーバおよび PowerChute Business Edition コンソールのバージョン情報は確認できませんので ご注意ください。

【PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を WebUI にて確認する方法】

WebUIを使用して PowerChute Business Edition エージェントがインストー ルされているサーバに接続し、PowerChute Business Edition エージェントの バージョン情報を確認します。

(「ヘルプ」→「PowerChute Business Edition について」を選択します。)

接続方法: ブラウザを起動し下記 URL を入力してください。 http:// エージェントがインストールされているサーバの IP アドレス:3052



(4) UPS の設定値の確認

UPS の設定値 (「バッテリ切り替え値 (上限)」、「バッテリ切り替え値 (下限)」、「感度」、「OS シャットダウン期間」、「電源回復時の UPS 再起動」) を確認します。

これらの情報は Smart-UPS 側の RAM に保持される情報のため、PowerChute Business Edition ログに記録されません。下記手順により各設定値を確認し、「14.3 障害調査依頼票」に記載してください。

- PowerChute Business Edition コンソールでの確認
- PowerChute Business Edition コンソールを起動し「デバイスのプロパティ」 画面で各パラメータを調べてください。(ツリーの「全般」→「電源パラメー タ」および「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」を選択しま す。「電源パラメータ」を表示するには「詳細項目の表示」にチェックを入れ てください。)



● テ ゙៱ჼ イ Ⴟወንʹኪ∧ჼንィ			0		
Win2003			Δ	PC	
 □ 金般 − スポノ UPS 情報 − 常見者(情報) − UPS のDD 情報 − UPS のDD 情報 − UPS のDD 情報 − UPS プークス − ジャットダウン − ジャットダウン − ジャットダウン − ジャットダウン − ジャットダウン − ジャットダウン − ジャットダウンタイク* ④ ロゲフィル 	<u>アーカの更新</u> コマルトフィル OS	(待機時間)(分) 000 300 シャットダウンシーケンスの最充定	シャットダ*ウンジ 期間 (分) 600	- / /77	■ OS シャット ダウン期間
□ 詳細項目の表示			開じる(②) 🦯	V1/7*(H)	
準備完了。					

2. 次に、ツリーの「シャットダウン」→「電源障害」を選択します。

以下に示されている、「電源回復時の UPS 再起動」の設定内容を障害調査票 に記入してください



"即時"または"バッテリ充電が次の容量になった時"が選択されている状態ならば、障害調査票内の「OSの再起動を有効にする」の欄に「はい」と記入してください。

"しない (UPS を手動でオンにする)"が選択されている状態ならば、「OS の再 起動を有効にする」の欄に「いいえ」と記入してください。

WebUI での確認

WebUIで PowerChute Business Edition エージェントがインストールされて いるサーバに接続してかくパラメータを確認し、「障害調査依頼票」に記録し てください。(「UPS 種類」→「設定」および「保護されたシステム」→「シャッ トダウンの設定」を選択します。)

接続方法:ブラウザを起動し下記 URL を入力してください。

http://エージェントがインストールされているサーバの IP アドレス:3052



以下の画面で各パラメータを確認してください。



(5)「障害調査依頼票」に記載されているその他の情報を収集し、記入して ください。

14.2 Linux 環境

コマンドラインからログ採取を行う場合は、「コマンドラインから行う場合」を作業後「確認事項」へ進んでください。

コマンドラインから行う場合

以下で行う資料採取の作業はすべて root 権限にて行ってください。一般ユーザにて ログインしている場合は、「su - 」コマンドにて root 権限になり行ってください。

PowerChute Business Edition のログ

- PowerChute Business Edition エージェント
- **1.** フォーマット済みの FD を Linux サーバの FD ドライブに挿入する。

以下のコマンドで FD をマウントする。

- Windows でフォーマットした FD を使用する場合 例)mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy
- Linux でフォーマットした FD を使用する場合 mount /dev/fd0 /mnt/floppy
- PowerChute Business Edition エージェント のインストールされているディ レクトリへ移動します。

例)cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent

- 3. ディレクトリ配下の下記ファイルおよび、ディレクトリを FD 媒体等に保存してください。
 - DataLog
 - EventLog
 - m11.cfg (m11の1は数字の1です。ご注意ください)
 - m11.bak (m11の1は数字の1です。ご注意ください。)
 - data.dat
 - debug.txt
 - pcbeproxy.txt
 - 「cmdfiles」ディレクトリおよびそのディレクトリ配下のファイル 例)cp -r cmdfiles /mnt/floppy コマンドで「cmdfiles」ディレクトリ配 下を一括コピーできます。

※ファイルサイズが大きい場合、tar コマンドなどで圧縮し、FD 媒体に保存してください。

例)tar cvzf ./pcbe_agent.tar.gz DataLog EventLog m11.cfg m11.bak debug.txt

data.dat pcbeproxy.txt cmdfiles

4. 以下のコマンドで FD をアンマウントする。

例)umount /dev/fd0

注意:アンマウントせずに FD 媒体を取り出すと、正しく FD に保存されない 場合がありますので、FD を取り出す前に必ずアンマウントしてください。

シスログの採取

以下の手順により、シスログの採取を行ってください。

- 1. フォーマット済みの FD を Linux サーバの FD ドライブに挿入する。
- 2. 以下のコマンドで FD をマウントする。
 - Windows でフォーマットした FD を使用する場合 例)mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy
 - Linux でフォーマットした FD を使用する場合
 例)mount /dev/fd0 /mnt/floppy
- 3. /var/log フォルダへ移動します。 cd /var/log
- **4.** その中にある「messages」ファイルを以下のコマンドで FD 媒体に保存する。 ご使用の環境によっては messages、messages.1、messages.2、…と複数の message ファイルが

存在します。下記コマンドによりそれらを一括でコピーできます。

例)cp messages* /mnt/floppy

※ファイルサイズが大きい場合は、tar コマンド等で圧縮し、FD 媒体に保存してください。

例)tar cvzf ./logfile1.tar.gz messages*

5. 以下のコマンドで FD をアンマウントする。

例)umount /dev/fd0

注意:アンマウントせずに FD 媒体を取り出すと、正しく FD に保存されない場合がありますので、FD を取り出す前に必ずアンマウントしてください。

確認事項

確認事項および確認方法は Windows 版と同じです。81 ページの「確認事項」を参照して情報の採取を行ってください。

14.3 障害調査依頼票

「確認事項」にて確認した内容を、下記の該当個所に記入してください。

《環境情報》

◆ソフトウェア情報◆

● 製品

 PowerChute Business Edition バージョン 	()
PowerChute Business Edition		
エージェント バージョン	()
PowerChute Business Edition		
サーバ バージョン	()
 PowerChute Business Edition 		
コンソール バージョン	()
その他の製品		

 ネットワークプロトコル ※全て記入してください (例) TCP/IP、NetBIOS プロトコル (LANManager)

● PowerChute Business Edition の設定値

バッテリ切り替え値 (上限)	() VAC
バッテリ切り替え値 (下限)	() VAC
感度	()
ローバッテリ信号時間	()分
OS シャットダウン期間	()秒
UPS 再起動待機 (時間)	()秒
UPS 再起動待機 (容量)	() %
電源回復時の UPS 再起動	()

注意:「OS シャットダウン期間」は WebUI では「OS シャットダウン待機 時間」と表現されています。

◆ハードウェア情報◆

• UPS

Smart-UPS () 型番(N)
-------------	--------	---

● サーバ本体機種 ※ OS(SP 含む) も含めて全て記入してください

•	機種			
	Express5800/()※ 51Tf、110Rd-1 など 型番 (N)
	iStorage NS シ	リーズ() 型番(N)
•	BIOS:AC-LINK (OS	の設定値	()
	Windows: ServicePack RedHat Linux:	((() ※ 2000、XP、Server 2003 など))	

● その他関連ハードウェア (N 型番も記載してください。)

《構成図》

各サーバに接続しているケーブルの型番も明記してください。

《お問い合わせ内容》

《添付ログファイルの有無》

□有 □無

- サーバの機種によっては電源制御モードを「AC 連動モード」に設定する必要 があります。設定方法はサーバの機種によって異なるため、サーバ本体の取 り扱い説明書を参照するか、保守員にご相談ください。
- [OS のシャットダウン期間](WebUI では「OS シャットダウン待機時間」)の 設定値は、OS のシャットダウンが開始されてから UPS の電源がオフになる 時間です。設定前にサーバのシャットダウンに必要な時間を計測し、その時 間を十分に超える値を設定してください。
- PowerChute Business Edition で設定するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管理対象エージェントで共通でなければなりません。異なるユーザ名、パスワードを設定したエージェントがある場合、そのエージェントを管理するためには、各エージェントと同一のユーザ名、パスワードを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」コンポーネントのサーバがそれぞれ必要となります。

また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。特に、パスワードは「*」で表示されており、 確認することができないので十分に注意して入力を行ってください。ただし、 コンピュータ、または管理者アカウントやドメインアカウントと異なってい ても構いません。

- PowerChute Business Edition エージェント、サーバのユーザ ID、パスワードとして使用できる記号文字は(%=-~^@{[+}],./_)の 15 文字です(両端のカッコは除く)。その他の記号文字を使用すると PowerChute Business Edition エージェント、サーバにアクセスできません。
- PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていない環境でサーバの再起動を行う時は、サーバ装置からシリアルケーブルを抜いておいてください。PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていないサーバにシリアルケーブルを接続したままサーバの再起動をすると、OS からシリアルポートに送信される文字列を UPS がバッテリ動作に切り替える命令と解釈して、UPS のランタイム較正が実行される場合があります。このような不要なバッテリ動作への切り替えによってバッテリ残量が減少し、インストールが失敗するのを防止するために、必ずシリアルケーブルをサーバから抜いておいてください。
- 1 つのエージェントを複数のコンソールから同時にアクセスしないように注意してください。また、WebUIを使用する場合も同様に同時に複数のマシンからアクセスしないようにしてください。これは、同時に設定が行われた場合に設定の不整合が生じるのを防止するためです。
- ●本製品をインストールする本体装置によっては、管理用としてシリアルポートが確保されている場合や、サーバ装置の仕様により使用可能なシリアルポートが限定されている場合があります。管理用として確保されていない、使用可能なシリアルポートを使用して UPS とサーバ本体を接続してください。

使用可能なシリアルポートを確認する場合はサーバ装置添付のマニュアルを 参照してください。

- PowerChute Business Edition コンポーネントのインストールは、OS にサービスパックを適用後に実施してください。すでに PowerChute Business Edition がインストールされたサーバに対して OS のサービスパックを適用する場合は、サービスパックを適用する前に PowerChute Business Edition をアンインストールする必要があります。なお、アンインストールをする前に PowerChute Business Edition にて行った設定情報 (UPS の設定値、スケジュール情報等)を予めメモしておいてください。サービスパック適用後に PowerChute Business Edition をインストールし、メモした内容を基に再設定を行ってください。
- エージェントのインストール時、セットアッププログラムが UPS を自動検出 できない場合、以下のとおり対処してください。

[APC UPS の通信ポートを自動検出しますか?]の画面で、自動検出を行わず に「いいえ」を選択してください。

「はい」を押すと検出に失敗しインストールが終了します。必ず「いいえ」を 選択してください。UPS タイプと通信ポートを選択してください。

UPS タイプは「Smart-UPS」を選択してください。

システムがスマートシグナリングで UPS を使用している場合に、UPS デバイスが手動設定できない場合は次の原因が考えられます。

- ターミナルエミュレータなどの他のサービスが、UPS が接続されている通信 ポートを使用している。該当する通信ポートを使用しているサービスを終了 するか、または UPS を他の通信ポートに接続し直してから、再び、手動で UPS タイプと通信ポートの設定を行ってください。
- UPS が製品添付のスマートシグナリングシリアルケーブルを使って接続されていない。
- UPS が接続されている通信ポートの通信設定が誤っている。
- UPS とコンピュータ間の接続に問題がある。(後述の、ハイパーターミナルによる確認手順にて確認を行ってください。)

 PowerChute Business Edition と PowerChute plus を同一コンピュータ上で 使用することはできません。PowerChute plus がインストールされている サーバに PowerChute Business Edition コンポーネントのインストールを行 うと、インストールされている PowerChute plusのバージョンに応じて次の いずれかのメッセージが表示されます。

メッセージ	説明
セットアッププログラムは、 PowerChute plus を検出しまし た。このソフトウェアは、 PowerChute Business Edition の セットアッププログラムを実行す る前に削除しておく必要がありま す。PowerChute plus を削除しま すか?([しいいえ]を選択すると、 セットアッププログラムが終了し ます。)	[はい]を選択すると、既存の PowerChute plus 5.x がアンインストー ルされます。[いいえ]を選択した場合 は、インストールが中止されます。
セットアッププログラムは、 PowerChute plus を検出しまし た。この製品をアンインストール してからもう一度セットアッププ ログラムを実行してください。	セットアッププログラムは、既存の PowerChute plus 4.x をアンインストー ルすることはできません。PowerChute Business Edition コンポーネントをイン ストールする前に、PowerChute plus をアンインストールする必要がありま す。

 PowerChute Business Edition のインストール時に表示されるメッセージを 次に示します。

メッセージ	説明
UPS サービスを停止できません。 再起動してからもう一度セット アップし直してください。	セットアッププログラムは Windows 2000/XP/2003 標準 UPS サービスを停 止できませんでした。コンピュータを再 起動してから、PowerChute Business Edition エージェントを再インストール してください。
<エージェント/サーバ>サービ スのインストール時にエラーが発 生しました。再起動してからもう 一度セットアップし直してくださ い。	PowerChute Business Edition サービス のインストールに失敗しました。まだ PowerChute Business Edition のファイ ルがインストールされていないこと、お よびコンピュータの OS が適切なものか どうかを確認した後(エラー!参照元が 見つかりません。エラー!参照元が見つ かりません。を参照)、もう一度インス トール作業を行ってください。

メッセージ	説明
次の dll のロー ド時にエラー <ld> が発生しました :<dll id="" の=""></dll></ld>	セットアッププログラムが DLL ファイル のロードに失敗しました。コンピュータ の OS が適切なものかどうかを確認し(エラー!参照元が見つかりません。エ ラー!参照元が見つかりません。を参照)、記載されている条件を満たしている ことを確認の上、もう一度インストール 作業を行って下さい。
必要なリソースのロードに失敗し ました。	PowerChute Business Edition コンポー ネントのインストールに必要なリソース (DLL リソース、InstallShield リソースな ど)をロードできませんでした。コン ピュータに十分なメモリがあることを確 認してから(エラー!参照元が見つかり ません。エラー!参照元が見つかりませ ん。を参照)、もう一度インストール作 業を行ってください。
パスワードが 3~16 文字でありま せん。	3~16 文字のパスワードを使用して下さ い。
PowerChute Business Edition を インストール、実行するには管理 者権限が必要です。いったんログ オフしてから、管理者権限を持つ アカウントを使ってセットアップ プログラムを再実行してくださ い。	PowerChute Business Edition コンポー ネントをインストールするには、コン ピュータに対する管理者権限が必要で す。
選択されたパスが有効かどうか判 断できません。ローカルハードド ライブ上のディレクトリを選択し てください。	PowerChute Business Edition をネット ワークドライブ、フロッピーディスクド ライブ、zip ドライブなどの、ローカル ハードディスク以外のドライブにインス トールすることはできません。
標準 UPS サービスの再起動に失敗 しました。電源保護を有効にする には、手動でサービスを再開する か、システムを再起動する必要が あります。	PowerChute Business Edition エージェ ントをインストールするために停止させ た OS 標準の UPS サービスを再開するこ とができません。コンピュータを再起動 するか、または手作業でサービスを再開 してください。
両方のパスワードが一致していな ければなりません。	[バスワード]と[確認]に入力した内容 が一致しないと PowerChute Business Edition コンポーネントをインストール することはできません。
ユーザ名が 3~16 文字ではありま せん。	3~16 文字のユーザ名を使用してください。

- PowerChute Business Editionの状態が「通信なし」、「通信切断」の場合は、 UPS との通信が正常に行われていません。これらの問題を解決するには、手 順1から順番に確認作業を行ってください。各手順に従って作業を行い、設 定内容が異なる場合には変更し、終了時に UPS との通信を確認してください。
 - 手順 1: シリアルポート設定の確認
 - 手順 2: シリアル接続が正常かどうかの確認

手順 1: シリアルポート設定の確認

UPS が接続されているシリアルポートの設定をチェックするために次の操作を行います。

[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックして、[ハードウェア]タブを選択します。次に[デバイスマネージャ]をクリックして、[通信ポート]を選択します。

ここの設定が次のようになっていることを確認してください。

パラメータ	設定
ボーレート	2400
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	Xon/Xoff
FIFO バッファを使用する	(無効にします)

注意:詳細設定の割り込み番号 (IRQ) が他のデバイスの IRQ と衝突していないことも確認してください。

手順 2: シリアル接続が正常かどうかの確認

ハイパーターミナル (HyperTerminal) を使用してシリアル接続が正常かどうかを確認します。

- **a.** PowerChute Business Edition を終了し、「APC PBE Agent」サービスを停止します。
- b. [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]を 選択し、[ハイパーターミナル]を起動します。

注意:Windows Server 2003 においては、「ハイパーターミナル」がイ ンストールされていない場合があります。その場合、[プログラムの追 加と削除] → [Windows コンポーネントの追加と削除] から「ハイパー ターミナル」をインストールしてシリアル接続の確認を行ってくださ い。

C. [接続の設定]ダイアログボックスに[名前を入力し、アイコンを選んでください]と表示されたら、適当な名前(例:PCBE TEST)を入力し、[OK]をクリックします。

[接続する前に、まずモデムをインストールしなければなりません。インストールを始めますか?]というメッセージが表示された場合は[いいえ]を選択して作業を続行します。

d. [接続方法]から、現在UPS へ接続しているコンピュータシリアルポート番号 (例:COM1)を選択後

<Windows Server 2003 の場合 >

[構成]を選択し、項番 e の設定を行った後、項番 f に進みます。

<Windows 2000/XPの場合>

[OK] をクリックし、項番 e に進みます。

e. [ポートの設定]タブから、以下の値を設定します。

パラメータ	設定
ビット/秒	2400
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	Xon/Xoff
FIFO バッファを使用する	選択を解除する

- f. 何も表示されていないブランクスクリーンで大文字のYを入力すると、画面に「SM」の文字が表示されます。
- G. 大文字のAを入力するとUPSからビープ音がなり、フロントパネルのLEDが 点滅し、画面に「OK」の文字が表示されます。

画面に「SM」と表示されない場合に、大文字のAを入力するとUPSのビー プ音が鳴り LED が点滅する場合、UPS 側で信号を受信しているのに送信でき ない可能性があります。次のような理由が考えられます。

- UPS からコンピュータへの信号送信機能が壊れている。
- インタフェースケーブル不良。
- コンピュータのシリアルポートが信号を受信できない。割り込みの衝突
 や、シリアルポート異常などの原因が考えられます。

画面に「SM」と表示されない場合には、他のシリアルケーブル、他のシリア ルポート、他のコンピュータ、または他の UPS を使用してハイパーターミナ ルから同じ操作を行い、問題点の切り分け、究明を行ってください。

● Windows Server 2003 サーバに PowerChute Business Edition エージェントコンポーネントをインストールし、UPS 装置を使用してサーバ装置の電源制御を行う場合、サーバ装置の BIOS 設定において、AC-LINK(AC 連動モード)設定に「Power ON」が設定可能か確認してください。確認方法はサーバ添付のユーザーズガイドを参照してください。「Power ON」相当の設定の可否により、提供できる機能が異なります

注意:AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

設定不可	停電による安全なシャットダウンはできますが、復電後の サーバ自動起動はできません。 また、スケジュールによるサーバの自動シャットダウンはで きますが、スケジュールによるサーバの自動起動はできません。
設定可能	停電シャットダウン後の復電によるサーバの自動起動、およ びスケジュールによるサーバの自動シャットダウン/自動起 動運転ができます。 停電シャットダウン後の復電によるサーバの自動起動、ある いはスケジュールによるサーバの自動起動を行われる場合は、 「Power ON」に設定してください。 注意:サーバによっては工場出荷時に「Last State」と設定さ れているものがありますので、運用前にサーバ装置のBIOS 設 定を確認することを強くお薦めします。

● Windows Server 2003 サーバ上で以下に挙げる操作を行う場合、Internet Explorer(以下 IE と省略)のセキュリティ設定を変更する必要があります。

- PowerChute Business Edition コンソールを使用する
- IE を使用して PowerChute Business Edition エージェントにアクセス する

< 設定変更 >

IE のメニューにおいて

[ツール]→[インターネットオプション]

を選択し、"セキュリティ"タブを選択後、以下のいずれかの設定を行って ください。

• (設定変更1)

"インターネット"を選択し、「このゾーンのセキュリティレベル」を 『中』に変更。

• (設定変更2)

"信頼済みサイト"を選択し、『サイト』ボタンを選択後、対象のサー バへアクセスするための URL を入力し、『追加』ボタンにより登録して ください。

http://(対象サーバの IP アドレス)

<例>

アクセスするサーバの IP アドレスが 192.168.0.3 の場合、" 信頼済み サイト " には以下のように登録します。

http://192.168.0.3

● Windows サーバから送信されるポップアップメッセージを受信し表示させたい場合、受信するマシン側において「Messenger」サービスが動作している必要があります。

注意:Windows Server 2003 の場合、OS インストール後のデフォルト設 定では「Messenger」サービスが動作しない設定になっている場合がありま す。

● Windows Server 2003 サーバにターミナルサーバーサービスがインストールされている状態で、PowerChute Business Editionの "サーバ "コンポーネントおよび、"コンソール "コンポーネントをアンインストールした場合、Windowsの[スタート]メニューに登録される [APC PowerChute Business Edition] 配下のメニューが削除されないことがあります。

削除されなかったメニューはアンインストール後、手動で削除してください。 なお、PowerChute Business Edition の "サーバ "および "コンソール "を アンインストール後、以前と異なるパスにインストールした場合、[スタート]メニューに残った [APC PowerChute Business Edition] 配下のメニューに関 するリンク情報は、新たにインストールされたパスの情報に更新されます。

PowerChute Business Edition エージェントをインストールした後、
 PowerChute Business Edition サーバ、およびコンソールから「設定プロファイルの適用」を行わずに停電させた場合、UPSのバッテリ容量がなくなるまで、サーバのシャットダウンは行われません。

「設定プロファイルの適用」を行わずに、停電発生時の動作を設定するために は WebUI を使用します。WebUI による設定は、テストするサーバ毎に行っ ていただく必要があります。

なお、PowerChute Business Edition サーバ、およびコンソールから「設定 プロファイルの適用」を行うと、停電発生時の動作を設定プロファイルの作 成で選択した電源保護方針に沿った内容で一括して設定できるため、「設定プ ロファイルの適用」を行うことを推奨します。

設定プロファイルおよび電源保護方針については、インストールガイド 14 ページの「5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール」および リリースノート「2.5 設定プロファイル」を参照してください。

- PowerChute Business Edition エージェントがインストールされた各サーバ にて個別の設定を行った後に「設定プロファイルの適用」あるいは「設定プ ロファイルの再適用」を行うと、各エージェントにて行った設定内容が設定 プロファイルの内容に初期化されてしまいます。設定プロファイルの適用を 行う前に各エージェントにて設定した個別の設定内容(OS シャットダウンま での時間、コマンドファイル実行所要時間、WebUIにて設定するイベントア クション等)をあらかじめメモしておき、設定プロファイル適用後に再設定し てください。
- PowerChute Business Edition では、SMTP 認証等のユーザ認証を行う E-Mail 送信をサポートしていません。E-Mail 通知機能を利用する場合はユーザ認証 を必要としない SMTP サーバを使用してください。
- PowerChute Business Edition v.6.1の PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition v.7.0のサーバおよびコンソールにて管理することはできません。同様に、PowerChute Business Edition v.7.0の PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition v.6.1のサーバおよびコンソールにて管理することもできません。

また、PowerChute Business Edition v.6.1 コンソールから PowerChute Business Edition v.7.0 サーバへの接続、および PowerChute Business Edition

v.7.0 コンソールから PowerChute Business Edition v.6.1 サーバへの接続に ついても同様に未サポートです。

- WebUI 機能を使用する際には、Web ブラウザは以下をご使用ください。
 - Windows マシンからエージェントにアクセスする場合、 Internet Explorer 6 以降をご使用ください。
 - Linux マシンからエージェントにアクセスする場合、Netscape 7.0 をご 使用ください。
- Windows マシンから Internet Explorer Version 6、または Linux マシンから Netscape 7.0 を使用して WebUI 機能を利用する場合、Sun の Java Runtime Environment (JRE) が必要となります。
 - Windows マシンから Internet Explorer を使用する場合は JRE v1.4.1 または v1.4.2 をご使用ください。
 - Linux マシンから Netscape を使用する場合は JRE v1.4.1 をご使用くだ さい。
- Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 マシンに Netscape をインストールする 際、OS のインストール CD-ROM 媒体に含まれている「compat-libstdc++-7.3-2.96.122.i386.rpm」を先にインストールして下さい。

Memo

Memo

Express5800 シリーズ

PowerChute[®] Business Edition v.7.0 インストールガイド

2004年7月初版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号 TEL(03)3454-1111(大代表)

©NEC Corporation 2004

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。